

令和4年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発
ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」班

分担研究報告書

研究分担課題名：HIV感染妊娠に関する臨床情報の集積と解析およびデータベースの更新

研究分担者：杉浦 敦 奈良県総合医療センター産婦人科、副部長
研究協力者：市田宏司 伊東レディースクリニック、院長
岸本倫太郎 成増産院、医員
小林裕幸 筑波大学大学院人間総合科学研究科、教授
高野政志 防衛医科大学校病院産科婦人科、教授
竹田善紀 奈良県総合医療センター産婦人科、医長
中西美紗緒 国立国際医療研究センター病院産婦人科、医員
箕浦茂樹 新宿区医師会区民健康センター、所長
桃原祥人 JA とりで総合医療センター産婦人科、部長
山中彰一郎 奈良県立医科大学産婦人科、診療助教
研究補助員：藤田 綾 奈良県総合医療センター産婦人科

研究要旨：

HIV感染妊娠の報告数は毎年40例前後で推移していたが、2019年は32例、2020年は24例とやや減少傾向にある。少子化により年間分娩数は減少していることが報告数の原因と考えられるが、今後の推移を注視するひつようがある。都道府県では大都市圏が中心であることに変化はないが、妊婦の国籍は年々日本人の占める割合が増加しており近年では過半数を占めるようになっている。分娩様式では帝王切開分娩がほとんどを占め、経膈分娩は飛び込み分娩や自宅分娩等を除きほぼゼロとなっていたが、本邦でも施設の受け入れ体制を整えた上で、予定経膈分娩とした例も見られてきている。今後研究班全体として、本邦に適した分娩様式に関する提言を示す必要があると思われる。母子感染は散発的に発生し続けており、特に妊娠中・産褥期に母体が感染したことによると思われる垂直感染例が報告されている。今後さらなる母子感染予防対策には、医療者・国民全体にHIV感染症に関する啓発を進め、どのような時期でもHIV感染症は生じ得ることを周知し、早期発見に努めることが最重要と思われる。他方母子感染予防対策はほぼ確立されており、HIV母子感染は予防可能となってきている。今後はcARTや分娩様式など感染予防対策が及ぼす児への長期的影響を検討し、母子感染予防対策を再検討する時期になりつつある。そのために、HIV母子感染予防に関する研究の恒久的な継続が必要である。

A.研究目的

国内におけるHIV感染妊婦とその出生児に関するデータベースを更新する。さらに現行のHIV母子感染予防対策の妥当性と問題点を検証し、予防対策の改訂および母子感染率のさらな

る低下を図る。

B.研究方法

1. 産婦人科小児科統合データベースの更新(吉野分担班および田中分担班との共同研究)

産婦人科、小児科それぞれの2021年（令和3年度）の全国調査で報告された症例を新たに追加し、令和4年度統合データベースを作成する。

2. 全国産婦人科二次調査

全国一次調査で HIV 感染妊婦の診療経験ありと回答した産婦人科診療施設に対し二次調査を行い、HIV 感染妊婦の疫学的・臨床的情報を集積・解析する。これにより HIV 感染妊婦の年次別・地域別発生状況を把握し、妊婦やパートナーの国籍の変化、婚姻関係の有無、医療保険加入などの経済状況、抗 HIV 療法の効果、妊娠転帰の変化や分娩法選択の動向などを検討する。

（倫理面への配慮）

臨床研究においては、文部科学省・厚生労働省「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守しプライバシーの保護に努めた。症例の識別は本研究における通し番号を用い、各情報は登録番号のみで処理されるため個人情報が漏洩することなく、またデータから個人を特定することも不可能である。

C. 研究結果

概要

- ・2021年12月までの HIV 感染妊娠の報告数は1,156例となった。
- ・年次別報告数は過去3年 32例→24例→16例とやや減少傾向にある。
- ・感染妊婦・パートナーの国籍は日本国籍が増加傾向にある。
- ・分娩様式は帝王切開がほぼ100%を占め、母子感染例はほぼ毎年散発的に62例報告されている。
- ・ほぼ全例に妊娠中 cART が施行され、39.0%が分娩前ウイルス量は検出限界未満とコントロール良好になっている。
- ・妊娠により初めて HIV 感染が判明する例は減少傾向にあり、感染が判明した上で妊娠例が増加している。

- ・転帰施設は80%以上が拠点病院となっている。
- ・近年の母子感染例では、妊娠初期スクリーニング陰性例を多く認める。
- ・2021年産婦人科二次調査での母子感染例の報告はなく、予定経膈分娩例が1例あった。

1. 産婦人科小児科統合データベースの更新および解析

小児科研究分担班（研究分担者：田中瑞恵）と当産婦人科研究分担班のデータとを照合し、令和4年度産婦人科小児科統合データベースとして更新した。その結果を図1に示す。2021年（令和3年）12月までに妊娠転帰が明らかとなった症例の集積である。2021年末までの HIV 感染妊娠の報告総数は1,156例となり、双胎が11例、品胎が1例含まれ、出生児数は813児となった。

1) HIV 感染妊娠の報告数

HIV 感染妊娠の報告数を図2に示す。1997年の39例以降年間30例以上で推移しており、2004年～2015年にかけて2009年と2011年を除き年間40例以上で推移していたが、2019年以降は、2019年32例、2020年24例、2021年16例とやや減少傾向にある。調査対象期間の変更に伴い2021年の報告数は減少しているが、2022年の報告数と併せた上で最終症例数とする予定である。

2) HIV 感染妊娠の報告都道府県別分布

都道府県別・年次別分布を表1に示す。地方ブロック別では東京・愛知・大阪といった大都市圏を含む地域が中心となっている。HIV 感染妊娠の報告都道府県別分布を図3に示す。東京が304例、次いで神奈川114例、愛知111例、千葉92例、大阪74例と大都市圏が多数を占める。

3) HIV 感染妊婦およびパートナーの国籍と HIV 感染状況

HIV 感染妊婦の国籍別・年次別変動を表 2 に示した。日本 510 例 (44.1%)、タイ 235 例 (20.3%) でこの 2 カ国で 6 割以上を占めている。地域別にみると、日本が 510 例 (44.1%)、日本を除くアジアが 402 例 (34.8%)、アフリカが 115 例 (9.9%)、中南米が 95 例 (8.2%) であった。

HIV 感染妊婦国籍の変動を図 4 に示す。日本国籍は増加の一途をたどり、1999 年以前では全体の 3 割程度であったが 2017~2021 年には全体の 59.6%を占めるようになった。一方、1999 年以前は 4 割程度であったタイ国籍の報告は近年減少しており、2017~2021 年は 9 例 (6.2%) のみであった。

パートナーの国籍別症例数および HIV の感染割合を表 3 に示した。国籍は日本が 599 例 (51.8%) で最も多く、次いでブラジル 65 例 (5.6%)、タイ 31 例 (2.7%) であった。HIV の感染割合は、10 例未満の報告が少ない国を除くと、ペルーが 88.9%と最も高く、次いでフィリピンが 87.5%で、日本は 29.8%と最も低率であった。地域別にみても、症例数が 10 例以下の欧州、中東を除くと、アフリカが 64.9%と最も高く、次いでアジアが 56.7%、中南米が 55.2%、北米が 30.8%であった。

パートナーの感染率は不明例を除くと、1999 年以前は 47.0%であったが徐々に減少傾向にあり、2017~2021 年では 31.5%まで減少している。(図 5)

HIV 感染妊婦とパートナーの国籍の組み合わせ別 5 年群別変動を図 6 に示した。感染妊婦、パートナーともに日本国籍が増加していることから、「妊婦—パートナー」の国籍が「日本—日本」である組み合わせが 1999 年以前は 20.6%であったが、2017~2021 年では 47.0%へ増加している。それに伴い特に「外国—日本」の組み合わせは 47.1%から 9.7%まで減少している。

4) 妊娠転帰と母子感染

HIV 感染妊娠の妊娠転帰別・年次別変動を図 7 に示した。

分娩に至った症例のみの分娩様式 5 年群別変動を図 8 に示した。経膈分娩は明らかに減少傾向にある。

在胎週数と出生児体重の平均を表 4 に示した。予定帝切分娩の平均在胎週数は 36w5d、平均出生児体重は 2,652g であった。

分娩様式・妊娠転帰別の母子感染数を表 5 に示した。母子感染は予定帝切分娩の 7 例、緊急帝切分娩の 9 例、経膈分娩の 40 例、分娩様式不明の 6 例、計 62 例が確認されている。

HIV 感染妊娠の年次別妊娠転帰と母子感染を表 6 に示した。母子感染は cART が普及していなかった 1991~2000 年までは毎年数例発生しているが、その後も少数ではあるがほぼ毎年報告され、特に近年は妊娠初期スクリーニング検査陰性例からの母子感染例が増加傾向にある。

他方、感染予防策として「初期 HIV スクリーニング検査」「予定帝切」「抗ウイルス薬 3 剤以上」「児の投薬あり」「断乳」全てを施行した 281 例での母子感染例は 1 例もなかった。

5) HIV 感染妊婦への抗ウイルス薬投与について

HIV 感染妊婦の血中ウイルス量を表 7 に示した。ウイルス量の最高値が 10 万コピー/ml 以上は 42 例 (6.2%)、1 万コピー/ml 以上 10 万コピー/ml 未満は 156 例 (23.0%)、1,000 コピー/ml 以上 1 万コピー/ml 未満は 134 例 (19.7%)、検出限界以上 1,000 コピー/ml 未満は 78 例 (11.5%)、検出限界未満は 269 例 (39.6%) であった。

HIV 感染妊婦へ投与された抗ウイルス薬の薬剤数別の年次推移を図 9 に示した。1 剤のみの投与は 1998 年をピークに減少している。2009 年以降はほぼ全例 cART である。

6) HIV 感染判明時期について

近年 HIV 感染が分からずに分娩に至る例や妊娠を契機に初めて HIV 感染が判明する例は減少している（図 10）が、感染判明後初めての妊娠例には初産婦も多数含まれる（図 11）。感染判明契機を見ると、妊娠以外の機会での感染判明例が増加傾向にあり（図 12）、このような例では感染が判明していない状況で妊娠した例と比較し HIV ウイルス量コントロールが良好である症例が多く、近年さらにコントロールは良好になりつつある（図 13）。これらの妊娠以外の機会での HIV 感染が判明した上で妊娠した群には、ウイルス量的・産科的に経膈分娩が許容可能な例が含まれている可能性がある。

7) 妊娠中・分娩後に母体の HIV 感染が初めて判明した例について

2000 年～2021 年に、妊娠中・分娩後に初めて HIV 感染が判明した例（初回判明群）は 308 例であった。近年 HIV 感染判明後妊娠が増加している。初回判明群において、妊娠初期に HIV 感染が判明している例は半数に過ぎず、感染判明時期が遅れるにつれ血中 HIV ウイルス量のコントロールは不良になっている。実際に 2000 年以降に生じた HIV 母子感染 20 例は全て初回判明群から生じており、さらに全て妊娠後期や分娩後に初めて HIV 感染が判明した例から生じている。（図 14）

7) HIV 感染判明後の再妊娠について

HIV 感染が判明した後に妊娠（感染判明後妊娠）した妊婦の妊娠回数を表 8 に示した。妊娠回数 1 回は 212 人、2 回は 82 人、3 回は 33 人、4 回は 13 人、5 回が 1 人、6 回が 1 人であった。2012 年～2021 年での感染判明後妊娠は 261 例あり、2012 年から 2021 年の HIV 感染判明の有無と妊娠時期の年次別推移を図 15 に、妊娠時期の変動を図 16 に示す。感染判明後妊娠は 2012 年～2016 年は 72.1%、2017 年～2021 年は 76.0%で、2021 年は 81.3%であった。また感染判明後初めて妊娠した 140 例のうち、前回

妊娠時に判明したものは 40 例（28.6%）であった。2012 年以降感染判明後妊娠の妊婦国籍、パートナー国籍を図 17、図 18 に示す。それぞれ日本国籍が 59.0%、58.2%と過半数を占めた。感染判明後妊娠の予定内・予定外妊娠の割合を図 19 に示す。54.9%が予定内妊娠と考えられた。感染判明後妊娠の妊娠中投薬の有無を図 20 に示す。感染判明後妊娠においても 3.2～19.4%の投薬なし・不明例が存在した。感染判明後妊娠の血中ウイルス量最高値を図 21 に示す。感染判明後妊娠においても、ウイルス量 1,000 コピー/ml 以上の症例は 10.3%存在する。感染判明後妊娠の分娩転帰場所を図 22 に示す。感染判明後妊娠の 3.4%は拠点病院以外が最終転帰場所となっていた。

8) HIV 感染妊娠の転帰場所

HIV 感染妊娠の転帰場所を図 23 に示した。拠点病院が 83.6%と約 8 割を占めた。拠点以外の病院 6.4%、診療所 1.6%、助産院 0.2%、自宅 0.6%、外国 3.1%、不明 4.6%であった。最近 5 年間（2017 年～2021 年）の HIV 感染妊娠 146 例の転帰場所を図 24 に示した。拠点病院が 144 例（98.6%）と図 23 よりも占める割合が高くなり、拠点以外の病院が 1 例（0.7%）、不明が 1 例（0.7%）となっている。

転帰場所別分娩様式を表 9 に示した。予定帝王切分娩が拠点病院では 552 例（61.7%）に施行されているのに対し、拠点病院以外の病院では 28 例（41.2%）のみであった。一方、経膈分娩は拠点病院では 27 例（3.0%）のみであったが、拠点以外の病院では 15 例（22.1%）、診療所・助産院では 14 例（73.7%）もみられた。

転帰場所別抗ウイルス薬投与状況を表 10 に示した。拠点病院では 658 例（73.5%）に抗ウイルス薬が投与されていたが、拠点病院以外では 24 例（35.3%）で、診療所・助産院では 1 例（5.3%）のみであった。

日本で経膈分娩した 73 例の詳細を表 11 に示した。妊娠中に抗ウイルス薬が投与されていた

症例が 9 例のみであり、飛び込み分娩が 19 例 (26.0%)を占めていた。

9) 母子感染 62 例についての解析

母子感染 62 例の転帰年と分娩様式を図 25 に、それらの臨床情報を表 12 に示した。1984 年に分娩様式不明の外国での分娩例で初めての母子感染が報告されている。その後 cART が治療の主流になる 2000 年まで毎年継続して報告され、それらの大部分の分娩様式は経膈分娩であった。その後も散発的に母子感染は報告され続け、2002 年、2006 年、2008 年、2010 年、2012 年、2013 年、2015 年、2016 年および 2020 年の母子感染例は分娩後に母親の HIV 感染が判明しており、11 例とも抗ウイルス薬は投与されていなかった。

妊婦国籍は日本が 18 例 (29.0%)と最も多く、次いでタイが 17 例 (27.4%)、ケニア 8 例 (12.9%)であった。日本転帰の 40 例 (表 14)では日本が 16 例 (40.0%)であった。

分娩様式を図 28 に示した。経膈分娩が 40 例 (64.5%)と 6 割以上を占め、ついで緊急帝王切開 9 例 (14.5%)、予定帝王切開 7 例 (11.3%)、分娩様式不明 6 例 (9.7%)であった。日本転帰の 40 例 (図 29)でも経膈分娩が 27 例 (67.5%)と最多であった。

転帰場所を図 31 に示した。外国が 19 例 (30.6%)と最も多く、拠点病院が 13 例 (21.0%)、拠点以外の病院が 9 例 (14.5%)、診療所 10 例 (16.1%)、自宅 1 例 (1.6%)、不明 10 例 (16.1%)であった。

妊婦の HIV 感染診断時期を図 32 に示した。妊娠前に判明した症例が 3 例 (4.8%)で、今回妊娠時が 8 例 (12.9%)、分娩直前が 1 例 (1.6%)、分娩直後が 6 例 (9.7%)、児から判明が 21 例 (33.9%)、分娩後その他の機会が 18 例 (29.0%)であった。また日本転帰の 40 例 (図 33)では妊娠前に判明した症例が 1 例 (2.5%)で、今回妊娠時が 6 例 (15.0%)、分娩直前が 1 例 (2.5%)、分娩直後が 6 例 (15.0%)、児から判明が 16 例

(40.0%)、分娩後その他の機会が 9 例 (22.5%)、不明が 1 例 (2.5%)であった。母子感染例は、感染判明時期が遅れた症例が多いことが分かる。特に分娩後に母体の感染が初めて判明し、母子感染が生じた 18 例のうち 6 例では、妊娠時の HIV 初期スクリーニング検査は陰性であった (図 35)。こういった例では妊娠・出産に関する情報を収集することが非常に困難であり、今後の母子感染予防対策を検討する上で大きな課題である。

10) データベースの EDC 化

HIV 感染妊娠に関する恒久的なデータベース構築を目標に、産婦人科・小児科二次調査の Electronic Data Capture (EDC)化を進めた。2021 年度より web での登録を開始し、今後 3 年間は紙面による回答と web 上での回答を併用する予定である。

2. HIV 感染妊婦の診療経験のある産婦人科病院に対する二次調査

産婦人科病院二次調査は、令和 4 年 10 月 11 日に初回発送した。一次調査で追加報告される度に二次調査用紙を随時送付した。その結果、令和 5 年 3 月 28 日現在、二次調査対象の 27 施設中 24 施設 (88.9%)から回答を得た。表 16 に示したが、複数施設からの同じ症例に対する重複回答を除くと現在の報告症例は 43 例で、そのうち 2021 年 3 月以前に受診したが当班へ未報告の症例が 5 例、2021 年 4 月から 2022 年 3 月までに受診した妊娠転帰症例が 27 例、当班に既に報告されている症例が 10 例、転帰不明が 1 例であった。

2022 年度回答があった 21 施設のうち、紙面での回答が 5 施設 (23.8%)、web 上での回答が 16 施設 (76.2%)であった。

1) 新規・未報告症例の解析

HIV 感染妊娠報告数は 33 例であった。報告都道府県を表 17 に示した。東京都が 8 例

(24.2%)と最も多く、次いで愛知県が7例(21.2%)であった。

妊婦国籍を表18に示した。日本は18例(54.5%)で、次いでフィリピンが4例(12.1%)であった。パートナーの国籍を表19に示した。日本が19例(57.6%)であった。妊婦とパートナーの組み合わせを表20に示した。日本人同士のカップルが最も多く15例(45.5%)であった。

HIV感染妊娠における分娩様式と母子感染の有無を表21に示した。予定帝王切開分娩が22例(68.8%)、緊急帝切3例(9.4%)、経膣2例(6.3%)、自然流産4例(12.5%)、人工妊娠中絶1例(3.1%)で、経膣分娩例は飛び込み分娩が1例、次子妊娠時に初めて母体の感染が判明した例が1例であった。母子感染例が2例報告されており、1例は妊娠34週からのcART開始例、もう1例は次子妊娠時に母体の感染が初めて判明した例であった。在胎週数と出生児体重の平均を表22に示した。平均在胎週数は36w6d、平均出生児体重は2,772gであった。

妊娠転帰場所を表23に示した。転帰不明1例を除く32例のうち、31例でエイズ拠点病院が妊娠転帰場所となっていた。

抗ウイルス薬のレジメンを表24に示した。cARTは25例(75.8%)で投与されていたが、未投与例を2例(6.1%)で認めた。また24例中2例は妊娠早期から投与されておらず、34週、38週と妊娠後期から投与が開始された例も存在した。

パートナーとの婚姻関係を表25に示した。婚姻ありが26例(78.8%)、婚姻なし・不明が5例(21.2%)であった。

HIV感染妊婦の感染判明時期を表26に示した。感染分からずに分娩が1例(3.0%)、感染分からずに妊娠が12例(36.4%)、感染判明後初めての妊娠が13例(39.4%)、感染判明後2回以上妊娠が7例(21.2%)で、60.6%は感染が分かった上での妊娠であった。HIV感染判明後に妊娠した20例について、妊娠回数を表27

に示した。1回目13例(65.0%)、2回目以降が7例(35.0%)であった。HIV感染判明時期と妊娠転帰を表28に示した。人工妊娠中絶例は、感染分からずに妊娠で1例(3.1%)であった。

HIV感染妊娠の妊娠方法と不妊治療の有無を表29に示した。不妊治療ありは3例(9.4%)で、また予定内妊娠が21例(65.6%)であった。

分娩までの受診歴を表30に示した。分娩に至った27例のうち、24例(88.9%)が定期受診を行っていた。その他3例のうち2例は不明であるが、定期受診されていたことが推察された。

D. 考察

全体の症例数としてはやや減少傾向であることは変わらないが、HIV感染妊娠数の減少によるものではなく、少子化がすすんでいることに伴うものであると推察される。

母子感染例は報告され続けており、次子妊娠時に感染が判明するなど分娩後に母体のHIV感染が初めて判明する例がほとんどとなっている。今後もこのような傾向は続くと思われ、梅毒など他の性感染症に罹患している症例ではHIVスクリーニングを施行するといったハイリスク例の抽出方法などを検討していく必要がある。

分娩様式は帝切分娩が大多数を占める状況は変わらない。コントロール良好例では経膣分娩も可能であると思われるが、現実的に医療体制構築が非常に困難であり、各施設で経膣分娩可能な体制を構築することは難しいと思われる。ウイルス量コントロールが良好であり、産婦人科・新生児科ともに対応可能な施設で経膣分娩を施行することは許容されるが、全施設に経膣分娩を推奨することは各施設からの報告をみると非現実的な可能性が高い。

本年度はEDCでの回答率が約80%であり、データベースのEDC化は順調に進みつつある。

しかし調査を各年度施行する毎に新たな問題点も生じてきているため、今後ひとつずつ問題点を抽出し、よりよいデータベースを作成していく。

2022年の産婦人科二次調査では、飛び込み分娩も報告されている。梅毒の増加と同様にHIV感染も今後増加する可能性があり、さらに注意して経過を追っていく必要がある。またcovid-19の蔓延により保健所でのHIV検査件数が減少している社会状況が影響している可能性もあるが、2022年度は妊娠時に初めて感染判明する例が例年と比較し増加していた。このような症例ではコントロール不良例が多く含まれる可能性があり、今後の推移に注意が必要である。

E.結論

社会状況の変化に対応可能なHIV母子感染予防対策を構築するために、永続的な調査継続が必須である。

G.研究業績

1. 杉浦 敦、山中彰一郎、市田宏司、岸本倫太郎、小林裕幸、高野政志、竹田善紀、中西美紗緒、箕浦茂樹、桃原祥人、藤田 綾、喜多恒和：HIV感染妊娠における経膈分娩の可能性に関する検討。第38回日本産婦人科感染症学会学術集会。東京、2022/5
2. 山中彰一郎、杉浦 敦、市田宏司、岸本倫太郎、小林裕幸、高野政志、竹田善紀、中西美紗緒、箕浦茂樹、桃原祥人、藤田 綾、喜多恒和：医療従事者への感染予防の観点から考える、HIV感染妊婦の分娩様式。第38回日本産婦人科感染症学会学術集会。東京、2022/5
3. 伊藤由子、吉野直人、岩動ちず子、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、北島浩二、喜多恒和：HIV母子感染予防に対する診療体制におけるCOVID-19感染拡大の影響。第38回日本産婦人科感

染症学会学術集会。東京、2022/5

4. 杉浦 敦、山中彰一郎、竹田善紀、中西美紗緒、市田宏司、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、吉野直人、喜多恒和：HIV感染妊娠における分娩週数と児の短期予後に関する検討。第58回周産期・新生児医学会学術集会。横浜、2022/7
5. 高野政志：「ウイルス母子感染！～正しく知って正しく防ごう～」HPVウイルス。第29回AIDS文化フォーラムin横浜。横浜、2022/8
6. 杉浦 敦、竹田善紀、山中彰一郎、市田宏司、岸本倫太郎、中西美紗緒、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、喜多恒和：HIV感染妊娠におけるコントロール不良例に関する検討。第74回日本産科婦人科学会学術講演会。福岡、2022/8
7. 高野政志：「ウイルス母子感染！～正しく知って正しく防ごう～」HPVウイルス。第12回AIDS文化フォーラムin京都。京都、2022/10
8. 杉浦 敦、山中彰一郎、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、藤田 綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、田中瑞恵、北島浩二、外川正生、喜多恒和：HIV感染妊娠における計画的妊娠に関する検討。第36回日本エイズ学会学術集会。浜松web、2022/11
9. 菊池琴佳、小山理恵、吉野直人、伊藤由子、岩動ちず子、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、北島浩二、出口雅士、高野政志、喜多恒和：日本における未受診妊婦の現状とHIV検査状況。第36回日本エイズ学会学術集会。浜松web、2022/11
10. 吉野直人、伊藤由子、岩動ちず子、小山理恵、菊池琴佳、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、北島浩二、出口雅士、高野政志、喜多恒和：妊婦におけるHIVおよび他の感染症のスクリーニング検査の実施率に関する全国調査。第36回日本エイズ

H.知的財産権の出願・登録状況

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

妊婦統合症例番号
(当方記入欄)

HIV 母子感染二次調査用紙

記入日 年 月 日

記入者氏名			記入者メールアドレス		
医療機関名					
妊婦生年月日	西暦	年	月	今回妊娠初診時年齢	歳
今回妊娠の初診日	西暦	年	月	初診時妊娠週数	週 日
回答いただく症例は妊娠中ですか？	はい	→調査終了です。調査用紙をご返送下さい。 次年度調査へのご協力をお願いいたします。			
	いいえ	→引き続き回答をお願いいたします。			

今回妊娠の 初診時について	エイズ 関連症状	特になし ・ 症状あり 「症状あり」の場合は具体的な症状をご記入ください。
	感染経路	性的接触 ・ 薬物使用 ・ 輸血 ・ 母子感染 ・ 不明 ・ その他()
	感染 判明時期	今回妊娠時(週) ・ 今回分娩直後 ・ 児の感染判明後 今回の妊娠以外の機会 (以前の妊娠時 ・ 次子の妊娠時 ・ 保健所検査 ・ HIV 関連症状発症(エイズ発症)) その他() ・ 不明 ※今回分娩直後：飛び込み分娩、未受診などで HIV の検査結果が分娩前に判明せず、分娩後に陽 性判明した場合など
	初診時の 治療状況	治療なし ・ 治療あり 「治療あり」の場合は治療開始時期・治療病院など具体的な内容をご記入ください。 治療開始時期：西暦 年 月 治療病院()
妊婦について	国籍 (出生国)	日本 ・ 外国 ・ 不明 「外国籍妊婦」の場合にご記入ください。 国名：
	婚姻関係	あり ・ なし ・ 不明
	医療保険	あり ・ なし ・ 不明
	職業など その他情報	
児の父親に ついて	国籍	日本 ・ 外国(国名：) ・ 不明
	HIV 感染 について	感染 ・ 非感染 ・ 不明

妊娠歴について	(正期産過期産－早産－自然流産－人工妊娠中絶－生児数)	—	—	—	—
	妊娠歴	転帰年月日:西暦 年 月 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切開・選択的帝王切開・自然流産・人工妊娠中絶・死産・不明 妊娠転帰施設: ()			
	①	出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・未確定・不明 その他特記事項:			
	妊娠歴	転帰年月日:西暦 年 月 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切開・選択的帝王切開・自然流産・人工妊娠中絶・死産・不明 妊娠転帰施設: ()			
	②	出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・未確定・不明 その他特記事項:			
	妊娠歴	転帰年月日:西暦 年 月 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切開・選択的帝王切開・自然流産・人工妊娠中絶・死産・不明 妊娠転帰施設: ()			
③	出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・未確定・不明 その他特記事項:				
妊娠歴	転帰年月日:西暦 年 月 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切開・選択的帝王切開・自然流産・人工妊娠中絶・死産・不明 妊娠転帰施設: ()				
④	出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・未確定・不明 その他特記事項:				
妊娠歴	転帰年月日:西暦 年 月 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経膈分娩・緊急帝王切開・選択的帝王切開・自然流産・人工妊娠中絶・死産・不明 妊娠転帰施設: ()				
⑤	出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・未確定・不明 その他特記事項:				

今回の妊娠について

妊娠経緯	予定内妊娠(挙児希望) ・ 予定外妊娠					
妊娠方法	自然 ・ 人工授精 ・ 体外受精 ・ その他() ・ 不明					
分娩までの受診歴	定期受診 ・ 最終受診から分娩まで3ヶ月以上受診なし ・ 3回以下 ・ 全く受診していない					
妊娠合併症	なし ・ 切迫早産 ・ 切迫流産 ・ HDP ・ GDM ・ その他() ・ 双胎 ・ 品胎 ・ 不明					
子宮がん・その他 性感染症について	子宮頸部細胞診	NILM ・ ASC-US ・ LSIL ・ ASC-H ・ HSIL ・ SCC ・ AGC ・ Adenoca ・ Other ・ 不明				
	HBV	(-) ・ (+) ・ 不明	HCV	(-) ・ (+) ・ 不明	淋菌	(-) ・ (+) ・ 不明
	クラミジア	(-) ・ (+) ・ 不明	梅毒	(-) ・ (+) ・ 不明	GBS	(-) ・ (+) ・ 不明
	その他					
分娩日(転帰日)	西暦	年	月	(妊娠週数:	週	日)
妊娠転帰	分娩 ・ 自然流産 ・ 人工妊娠中絶 ・ 不明					
分娩場所	貴施設 ・ 他施設 ・ 不明					
	「他施設」へ紹介された場合はご記入ください。 紹介先: 紹介日:西暦 年 月 担当医師名:					
分娩様式	経陰 ・ 緊急帝王切 ・ 選択的帝王切 ・ 不明					
分娩様式を選択した理由	経陰	妊婦の希望 ・ 帝王切が間に合わなかった ・ 分娩後に感染が判明した その他()				
	緊急帝王切	胎児機能不全 ・ 破水 ・ 切迫子宮破裂 ・ 陣痛発来 ・ その他()				
	選択的帝王切	既往帝王切 ・ 感染予防 ・ その他()				
陣痛について	自然陣痛 ・ 誘発陣痛 ・ 陣痛なし ・ 不明					
破水から分娩までの時間	時間	分				
破水について	陣痛開始前に自然破水 ・ 陣痛開始後に自然破水 ・ 人工破膜 ・ 不明					
分娩時間	時間	分				
アプガースコア	1分:	点	/5分	点		
羊水混濁	あり ・ なし ・ 不明					
分娩時の点滴	AZT投与 ・ 投与なし ・ その他投薬 ()					
児について	HIV感染	感染 ・ 非感染 ・ 未確定 ・ 不明				
	性別	男児 ・ 女児 ・ 不明				
	出生時体重	g				
	母乳	投与あり (期間 か月) ・ 投与なし ・ 不明				
	AZT	投与あり ・ 投与なし ・ その他投薬()				
	シロップの投与	「投与あり」の場合はご記入ください。 副作用: あり ・ なし ・ 不明 症状 [] 投与の中止: あり ・ なし ・ 不明 理由 []				

妊婦の治療について

妊娠中の 投薬について	投薬あり・投薬なし・不明
	「投薬あり」の場合はご記入ください。 投与期間：妊娠前から・妊娠 週～ 週 薬剤レジメン：（ ）
	薬剤変更した場合：期間（妊娠 週～ 週） 薬剤レジメン（ ）
産後の 投薬について	投薬あり・投薬なし・不明
	「投薬あり」の場合はご記入ください。 投与期間：産後 週・日～ 週・日・現在も継続中 薬剤レジメン：（ ）
	薬剤変更した場合：期間（産後 週・日～ 週・月・現在も継続中） 薬剤レジメン（ ）

妊婦ラボデータ

妊娠週数		妊娠前・	妊娠初期 (0~15w6d) 妊娠 週 日	妊娠中期 (16w0d~27w6d) 妊娠 週 日	妊娠後期 (28w0d~41w6d) 妊娠 週 日	分娩直前 (分娩 4w前まで) 妊娠 週 日	分娩直後 (分娩日~1w未満) 産後 日	産褥 (分娩後 1w~4w) 産後 週
採血年月日		年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月
血算	白血球数 (/μl)							
	ヘモグロビン (g/dL)							
	リンパ球 (%)							
	リンパ球数 (/μl)							
リンパ球 分画	CD4(%)							
	CD8(%)							
	CD4 数 (/μl)							
	CD8 数 (/μl)							
	CD4/8							
ウイルス 量	RNA (コピー/ml)							

産科最終受診日	西暦 年 月 ・ 現在も受診中
産科終診後 内科 等でのフォローの 有無	フォローあり ・ フォローなし
その他 特記事項	感染妊婦・パートナー・児を含め、できるだけ多くの情報をご記入ください。

ご協力ありがとうございました

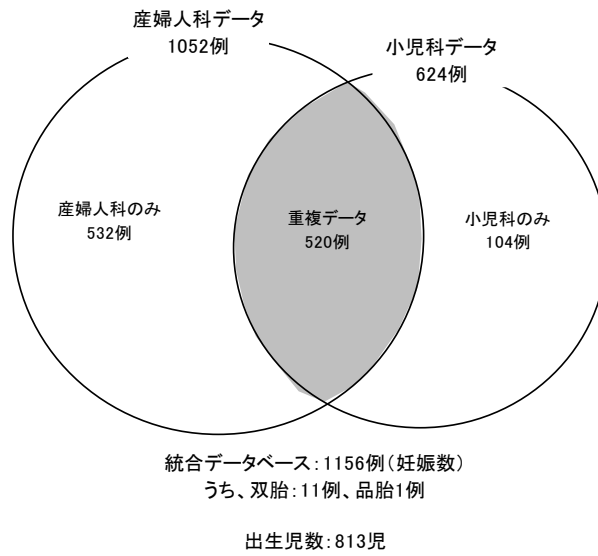


図1 令和4年度産婦人科小児科統合データベース

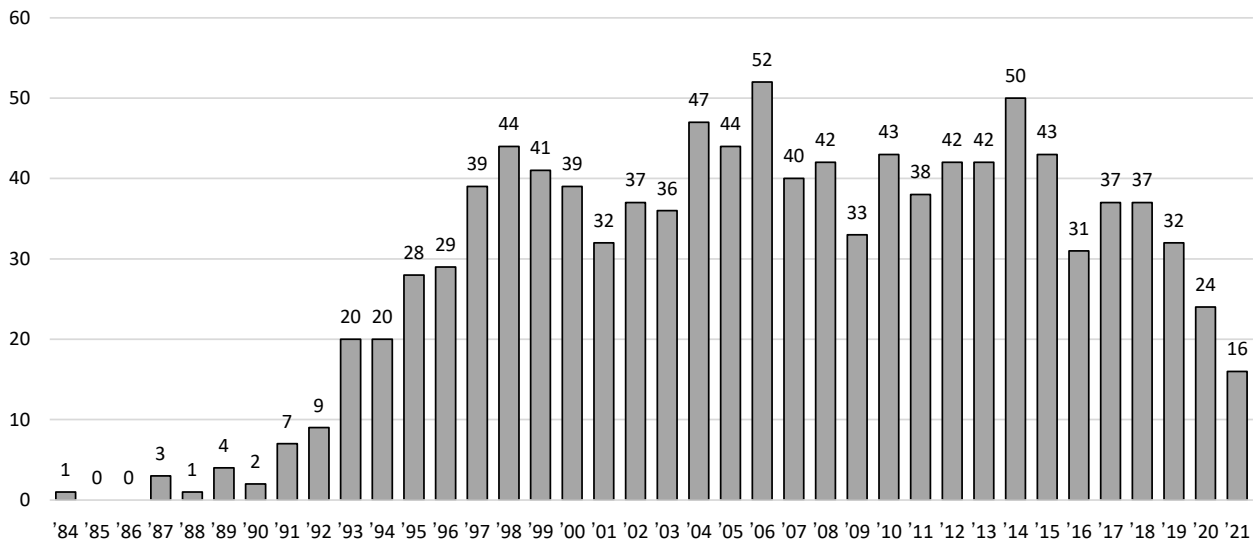
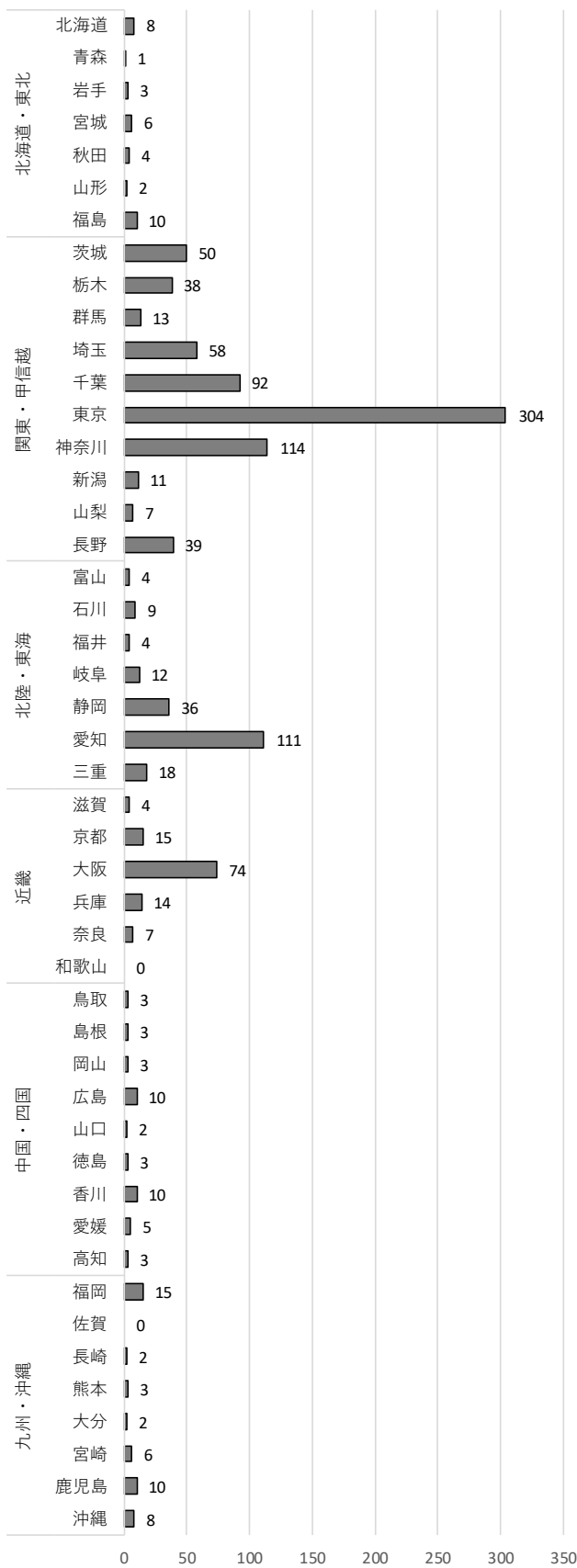


図2 HIV感染妊娠の報告数

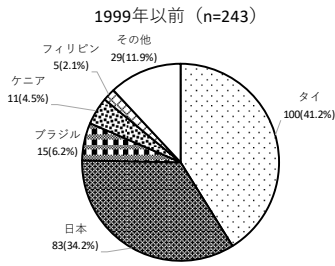
HIV感染妊婦報告数（例）



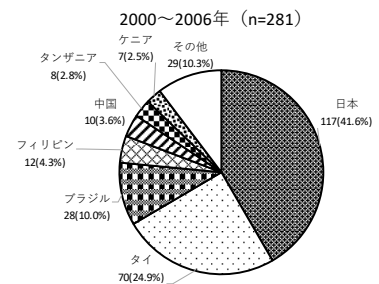
都道府県	総計
1 東京	304
2 神奈川	114
3 愛知	111
4 千葉	92
5 大阪	74
6 埼玉	58
7 茨城	50
8 長野	39
9 栃木	38
10 静岡	36
11 三重	18
12 京都	15
12 福岡	15
14 兵庫	14
15 群馬	13
16 岐阜	12
17 新潟	11
18 福島	10
18 広島	10
18 香川	10
18 鹿児島	10
22 石川	9
23 北海道	8
23 沖縄	8
25 山梨	7
25 奈良	7
27 宮城	6
27 宮崎	6
29 愛媛	5
30 秋田	4
30 富山	4
30 福井	4
30 滋賀	4
34 岩手	3
34 鳥取	3
34 島根	3
34 岡山	3
34 徳島	3
34 高知	3
34 熊本	3
41 山形	2
41 山口	2
41 長崎	2
41 大分	2
45 青森	1
46 和歌山	0
46 佐賀	0

図3 HIV感染妊娠の報告都道府県別分布

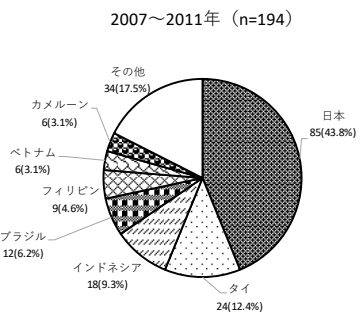
1999年以前	
国籍	症例数
タイ	100
日本	83
ブラジル	15
ケニア	11
フィリピン	5
タンザニア	4
エチオピア	4
ベトナム	3
ミャンマー	3
ウガンダ	3
中国	2
ボリビア	2
インドネシア	1
カンボジア	1
インド	1
ザンビア	1
ジンバブエ	1
ルワンダ	1
ブルンジ	1
ペルー	1
合計	243



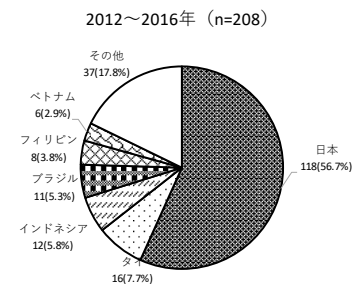
2000～2006年	
国籍	症例数
日本	117
タイ	70
ブラジル	28
フィリピン	12
中国	10
タンザニア	8
ケニア	7
ミャンマー	3
ザンビア	3
ウクライナ	3
インドネシア	2
ベトナム	2
韓国	2
マレーシア	2
ガーナ	2
ラオス	1
カメルーン	1
ウガンダ	1
エチオピア	1
ナイジェリア	1
マラウイ	1
ペルー	1
アルゼンチン	1
ホンジュラス	1
ロシア	1
合計	281



2007～2011年	
国籍	症例数
日本	85
タイ	24
インドネシア	18
ブラジル	12
フィリピン	9
ベトナム	6
カメルーン	6
中国	4
ミャンマー	4
スーダン	4
ラオス	3
ウガンダ	3
エチオピア	3
ペルー	3
カンボジア	2
タンザニア	2
ルーマニア	2
韓国	1
ガーナ	1
レソト	1
ロシア	1
合計	194



2012～2016年	
国籍	症例数
日本	118
タイ	16
インドネシア	12
ブラジル	11
フィリピン	8
ベトナム	6
中国	5
ケニア	5
カメルーン	5
ペルー	4
ミャンマー	3
ラオス	3
カンボジア	2
ガーナ	2
ネパール	1
台湾	1
エチオピア	1
ルワンダ	1
モザンビーク	1
ボリビア	1
ロシア	1
ルーマニア	1
合計	208



2017～2021年	
国籍	症例数
日本	87
タイ	9
カメルーン	7
ブラジル	6
フィリピン	4
インドネシア	4
ミャンマー	4
中国	2
ベトナム	2
ケニア	2
タンザニア	2
ウガンダ	2
ガーナ	2
ジンバブエ	2
ペルー	2
カンボジア	1
ナイジェリア	1
マラウイ	1
ガンビア	1
ギニア	1
リビア	1
コートジボワール共和国	1
ボリビア	1
ロシア	1
合計	146

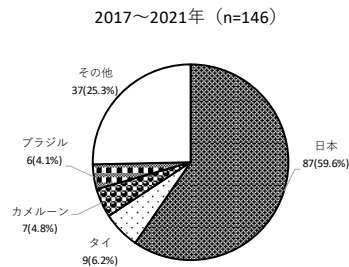


図4 HIV感染妊婦国籍の変動

表3 パートナーの国籍別症例数および HIV 感染割合

地域・国名	総計		感染		非感染	不明
日本	599	51.8%	139	29.8%	328	132
アジア	97	8.4%	38	56.7%	29	30
タイ	31	2.7%	11	55.0%	9	11
インドネシア	19	1.6%	8	53.3%	7	4
フィリピン	10	0.9%	7	87.5%	1	2
ベトナム	9	0.8%	3	42.9%	4	2
中国	6	0.5%		0.0%	3	3
インド	4	0.3%	1	50.0%	1	2
マレーシア	4	0.3%	4	100.0%		
ミャンマー	3	0.3%	1	50.0%	1	1
カンボジア	4	0.3%	1	100.0%		3
ネパール	2	0.2%	1	100.0%		1
バングラデシュ	2	0.2%	1	50.0%	1	
韓国	1	0.1%				1
パキスタン	1	0.1%		0.0%	1	
ラオス	1	0.1%		0.0%	1	
中東	6	0.5%	2	50.0%	2	2
イラン	3	0.3%		0.0%	2	1
トルコ共和国	2	0.2%	2	100.0%		
イラク	1	0.1%				1
アフリカ	103	8.9%	51	64.6%	28	24
ナイジェリア	22	1.9%	11	64.7%	6	5
ガーナ	18	1.6%	5	38.5%	8	5
ケニア	14	1.2%	10	71.4%	4	
カメルーン	11	1.0%	5	83.3%	1	5
ウガンダ	7	0.6%	4	100.0%		3
タンザニア	5	0.4%	2	40.0%	3	
マラウイ	6	0.5%	4	80.0%	1	1
エジプト	4	0.3%	1	33.3%	2	1
チュニジア共和国	3	0.3%	2	66.7%	1	
ジンバブエ	3	0.3%	1	50.0%	1	1
セネガル	2	0.2%	1	100.0%		1
シェラレオネ共和国	2	0.2%	1	100.0%		1
コートジボワール共和国	1	0.1%				1
コンゴ民主共和国	1	0.1%	1	100.0%		
モザンビーク	1	0.1%		0.0%	1	
南アフリカ共和国	1	0.1%	1	100.0%		
リビア	1	0.1%	1	100.0%		
ザンビア	1	0.1%	1	100.0%		
中南米	86	7.4%	32	55.2%	26	28
ブラジル	65	5.6%	21	45.7%	25	19
ペルー	15	1.3%	8	88.9%	1	6
ボリビア	4	0.3%	2	100.0%		2
ドミニカ	1	0.1%	1	100.0%		
メキシコ	1	0.1%				1
北米	21	1.8%	4	30.8%	9	8
アメリカ	19	1.6%	4	33.3%	8	7
カナダ	2	0.2%		0.0%	1	1
欧州	7	0.6%	1	33.3%	2	4
ルーマニア	2	0.2%				2
イタリア	2	0.2%		0.0%	1	1
ウクライナ	1	0.1%				1
フランス	1	0.1%		0.0%	1	
ベルギー	1	0.1%	1	100.0%		
不明	237	20.5%	13	61.9%	8	216
総計	1,156		280	39.3%	432	444

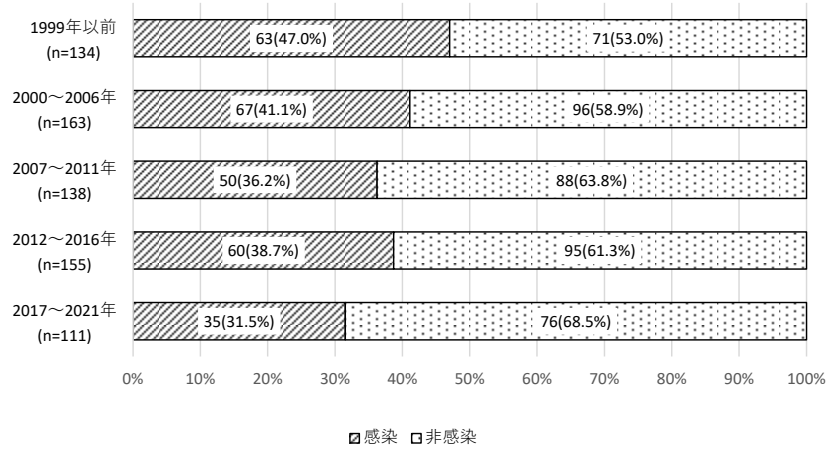


図5 パートナーの感染有無

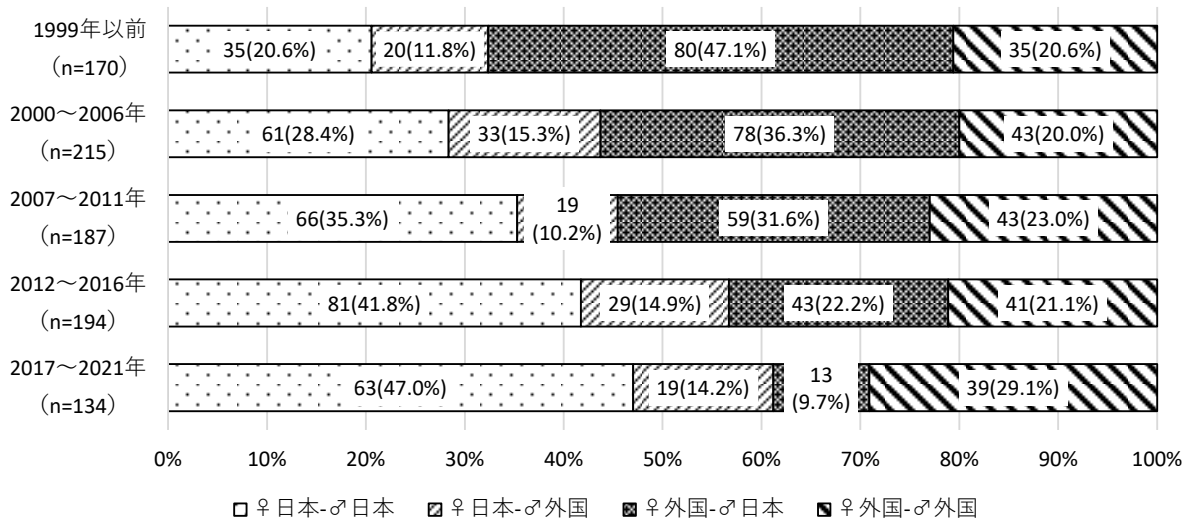


図6 HIV感染妊婦とパートナーの国政組み合わせ別変動

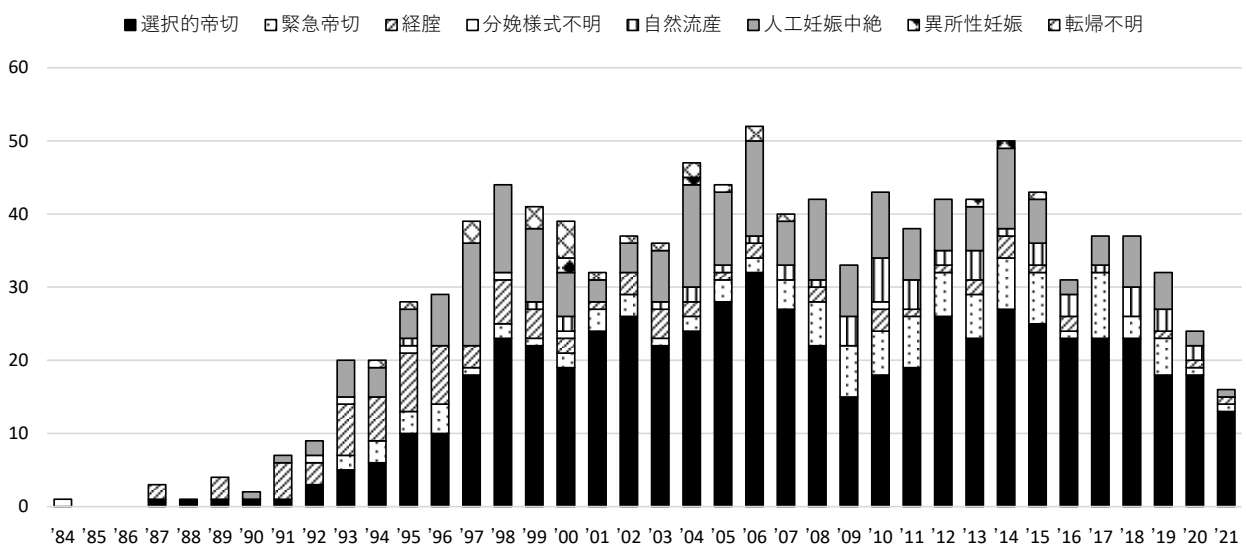


図7 HIV感染妊娠の妊娠転帰別・年次別変動

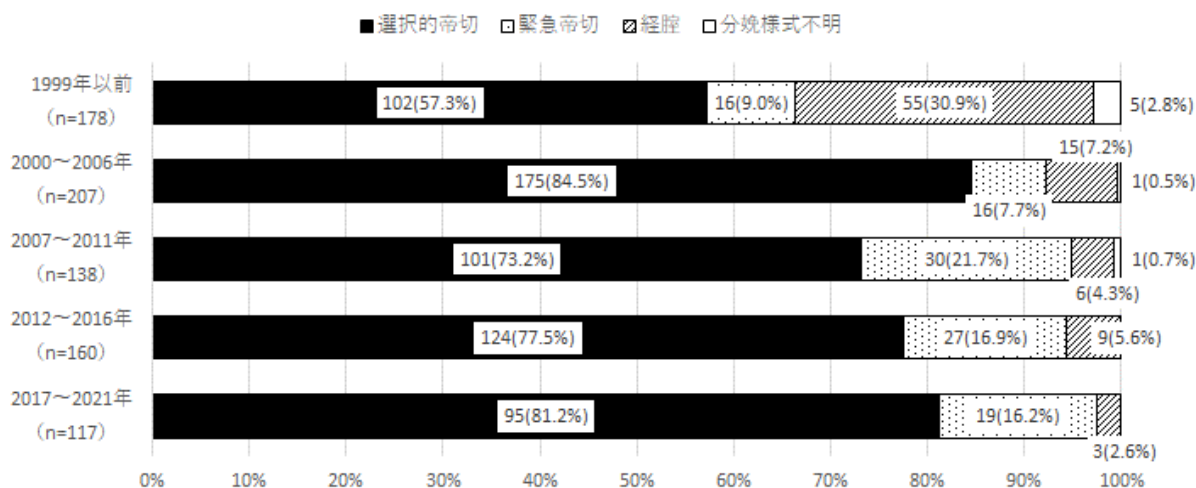


図8 分娩様式別変動

表4 在胎週数と出生児体重の平均

	選択的帝切		緊急帝切		経腔		分娩様式不明	自然流産	異所性妊娠	人工妊娠中絶	転帰不明 (%)	
	症例数	在胎週数 児体重	症例数	在胎週数 児体重	症例数	在胎週数 児体重						
1999年以前	平均 102	34w3d 2619	平均 16	36w5d 2641	平均 55	38w3d 2917	5	2	60	24.2%	8	
	標準偏差	1.7w 423	標準偏差	2.8w 611	標準偏差	2.3w 477						
2000～2006年	平均 175	36w4d 2601	平均 16	35w0d 2480	平均 15	37w5d 2869	1	7	4	57	19.9%	12
	標準偏差	0.8w 341	標準偏差	3.0w 787	標準偏差	2.4w 396						
2007～2011年	平均 101	36w5d 2598	平均 30	34w4d 2248	平均 6	38w6d 2989	1	17	40	20.4%	1	
	標準偏差	1.0w 345	標準偏差	3.0w 62	標準偏差	1.4w 400						
2012～2016年	平均 124	37w1d 2712	平均 27	35w0d 2259	平均 9	37w1d 2537		13	2	32	15.4%	1
	標準偏差	0.6w 368	標準偏差	2.1w 620	標準偏差	3.8w 407						
2017～2021年	平均 95	37w1d 2763	平均 19	34w3d 2293	平均 3	39w3d 2975		10	19	13.0%		
	標準偏差	0.5w 331	標準偏差	2.7w 601	標準偏差	0w 406						
総計	平均 597	36w5d 2652	平均 108	35w0d 2354	平均 88	38w2d 2871	7	49	6	208	19.2%	22
	標準偏差	1.0w 267	標準偏差	2.8w 682	標準偏差	2.5w 467						

転帰年不明 88例を除く

表5 分娩様式・妊娠転帰別の母子感染

分娩様式 ・妊娠転帰	母子感染			総計	
	感染	非感染	不明	症例数	割合 (%)
選択的帝切	7	535	55	597	51.6%
緊急帝切	9	89	10	108	9.3%
経腔	40	37	11	88	7.6%
分娩様式不明	6	1		7	0.6%
自然流産				49	4.2%
人工妊娠中絶				213	18.4%
異所性妊娠				6	0.5%
転帰不明				88	7.6%
総計	62	662	76	1,156	100.0%

表 6 年次別妊娠転帰と母子感染

転帰年	妊娠数	分娩数	分娩/妊娠	選択的帯切				緊急帯切				経膣				分娩様式不明			自然流産	異所性妊娠	人工妊娠中絶 中絶/妊娠	転帰不明			
				分娩数	選択/分娩	感染	非感染	分娩数	緊急/分娩	感染	非感染	分娩数	経膣/分娩	感染	非感染	分娩数	感染	非感染							
S59	1984	1	1	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
S60	1985	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S61	1986	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S62	1987	3	3	100.0%	1	33.3%	-	1	-	-	-	-	2	66.7%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S63	1988	1	1	100.0%	1	100.0%	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H1	1989	4	4	100.0%	1	25.0%	-	1	-	-	-	-	3	75.0%	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H2	1990	2	1	50.0%	1	100.0%	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0%	
H3	1991	7	6	85.7%	1	16.7%	1	1	-	-	-	-	5	83.3%	3	1	-	-	-	-	-	-	1	14.3%	
H4	1992	9	7	77.8%	3	42.9%	-	3	-	-	-	-	3	42.9%	2	1	1	1	-	-	-	-	2	22.2%	
H5	1993	20	15	75.0%	5	33.3%	1	4	2	13.3%	-	1	7	46.7%	4	2	1	1	-	-	-	-	5	25.0%	
H6	1994	20	15	75.0%	6	40.0%	-	6	3	20.0%	1	2	6	40.0%	3	3	-	-	-	-	-	-	4	20.0%	1
H7	1995	28	22	78.6%	10	45.5%	1	9	3	13.6%	1	1	8	36.4%	6	2	1	1	1	-	-	-	4	14.3%	1
H8	1996	29	22	75.9%	10	45.5%	-	10	4	18.2%	1	1	8	36.4%	2	5	-	-	-	-	-	-	7	24.1%	-
H9	1997	39	22	56.4%	18	81.8%	2	15	1	4.5%	-	1	3	13.6%	2	1	-	-	-	-	-	-	14	35.9%	3
H10	1998	44	32	72.7%	23	71.9%	-	19	2	6.3%	1	-	6	18.8%	2	3	1	1	-	-	-	-	12	27.3%	-
H11	1999	41	27	65.9%	22	81.5%	-	21	1	3.7%	-	1	4	14.8%	2	-	-	-	1	-	-	-	10	24.4%	3
H12	2000	39	24	61.5%	19	79.2%	-	17	2	8.3%	1	1	2	8.3%	2	-	1	1	2	2	-	-	6	15.4%	5
H13	2001	32	28	87.5%	24	85.7%	-	22	3	10.7%	-	3	1	3.6%	-	1	-	-	-	-	-	-	3	9.4%	1
H14	2002	37	32	86.5%	26	81.3%	-	21	3	9.4%	-	3	3	9.4%	1	2	-	-	-	-	-	-	4	10.8%	1
H15	2003	36	27	75.0%	22	81.5%	-	19	1	3.7%	-	1	4	14.8%	3	-	-	-	1	-	-	-	7	19.4%	1
H16	2004	47	28	59.6%	24	85.7%	-	23	2	7.1%	-	1	2	7.1%	2	-	-	-	2	1	-	-	14	29.8%	2
H17	2005	44	32	72.7%	28	87.5%	1	25	3	9.4%	-	3	1	3.1%	-	1	-	-	1	1	-	-	10	22.7%	-
H18	2006	52	36	69.2%	32	88.9%	-	30	2	5.6%	-	2	2	5.6%	1	1	-	-	1	-	-	-	13	25.0%	2
H19	2007	40	31	77.5%	27	87.1%	-	23	4	12.9%	-	3	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6	15.0%	1
H20	2008	42	30	71.4%	22	73.3%	-	19	6	20.0%	-	6	2	6.7%	1	-	-	-	1	-	-	-	11	26.2%	-
H21	2009	33	22	66.7%	15	68.2%	-	14	7	31.8%	2	5	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	7	21.2%	-
H22	2010	43	28	65.1%	18	64.3%	1	17	6	21.4%	-	6	3	10.7%	3	-	-	-	6	-	-	-	9	20.9%	-
H23	2011	38	27	71.1%	19	70.4%	-	19	7	25.9%	-	5	1	3.7%	-	1	-	-	4	-	-	-	7	18.4%	-
H24	2012	42	33	78.6%	26	78.8%	-	23	6	18.2%	-	5	1	3.0%	1	-	-	-	2	-	-	-	7	16.7%	-
H25	2013	42	31	73.8%	23	74.2%	-	21	6	19.4%	-	6	2	6.5%	1	1	-	-	4	1	-	-	6	14.3%	-
H26	2014	50	37	74.0%	27	73.0%	-	24	7	18.9%	-	7	3	8.1%	-	2	-	-	1	1	-	-	11	22.0%	-
H27	2015	43	33	76.7%	25	75.8%	-	21	7	21.2%	-	6	1	3.0%	1	-	-	-	3	-	-	-	6	14.0%	1
H28	2016	31	26	83.9%	23	88.5%	-	22	1	3.8%	-	1	2	7.7%	1	-	-	-	3	-	-	-	2	6.5%	-
H29	2017	37	32	86.5%	23	71.9%	-	22	9	28.1%	1	8	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	10.8%	-
H30	2018	37	26	70.3%	23	88.5%	-	17	3	11.5%	-	3	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	7	18.9%	-
R1	2019	32	24	75.0%	18	75.0%	-	18	5	20.8%	-	5	1	4.2%	-	1	-	-	3	-	-	-	5	15.6%	-
R2	2020	24	20	83.3%	18	90.0%	-	16	1	5.0%	-	1	1	5.0%	1	-	-	-	2	-	-	-	2	8.3%	-
R3	2021	16	15	93.8%	13	86.7%	-	11	1	6.7%	-	1	1	6.7%	-	1	-	-	-	-	-	-	1	6.3%	-
不明		71	0	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	5	7.0%	66
総計		1,156	800		597		7	535	108		9	89	88		40	37		7	6	1	49	6	213		88

表 7 HIV 感染妊婦の血中ウイルス量最高値

ウイルス量 (コピー/ml)	症例数	(%)
100,000以上	42	6.2%
10,000以上100,000未満	156	23.0%
1,000以上10,000未満	134	19.7%
検出限界以上1,000未満	78	11.5%
検出限界未満	269	39.6%
総計	679	100.0%

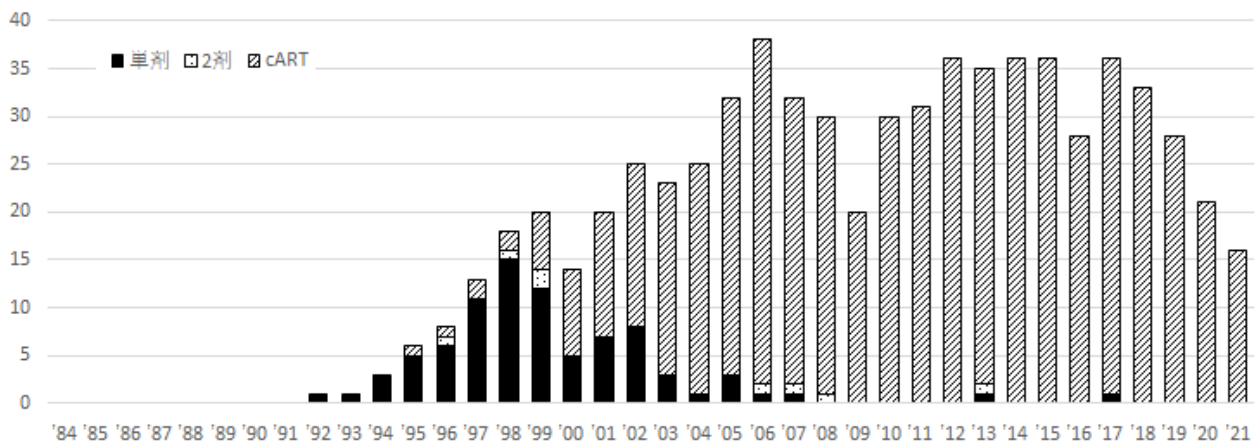


図 9 抗ウイルス薬投与例の薬剤数別年次推移

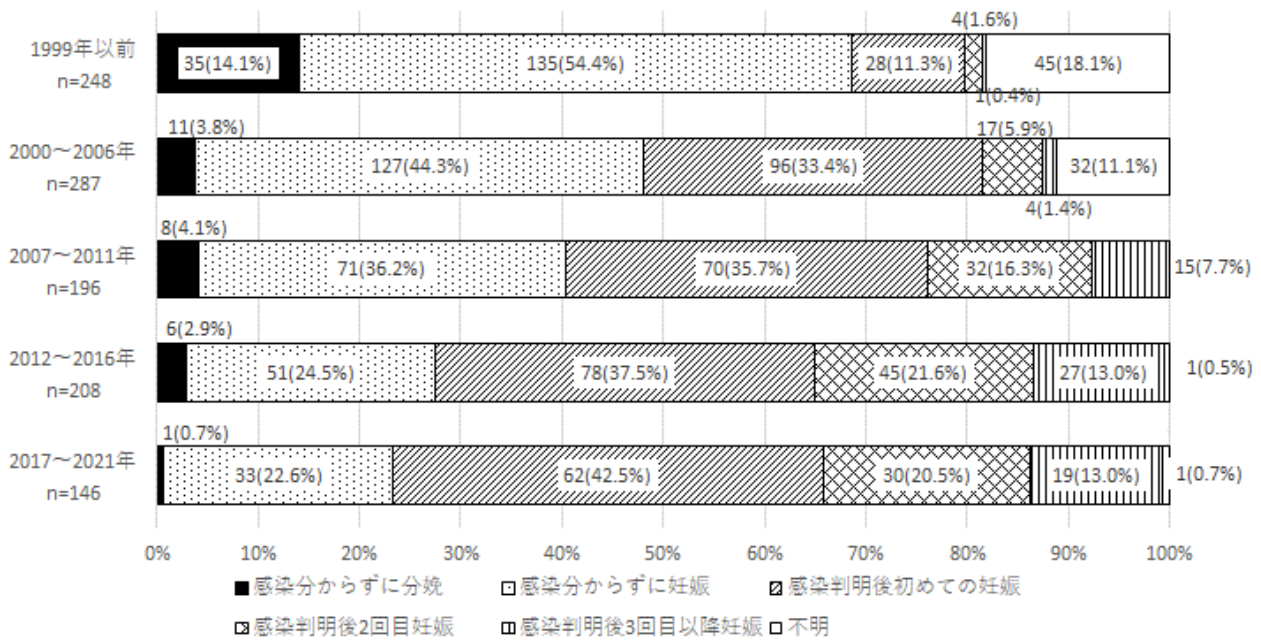


図 10 感染判明時期の推移

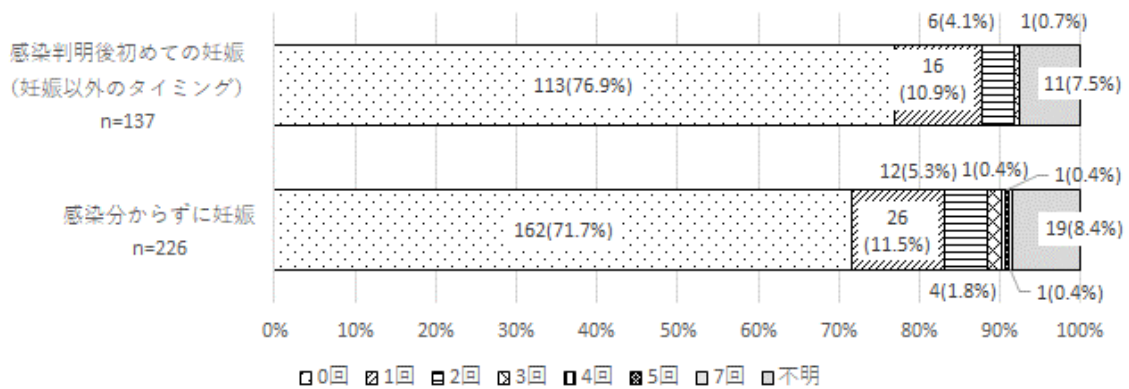


図 11 分娩歴

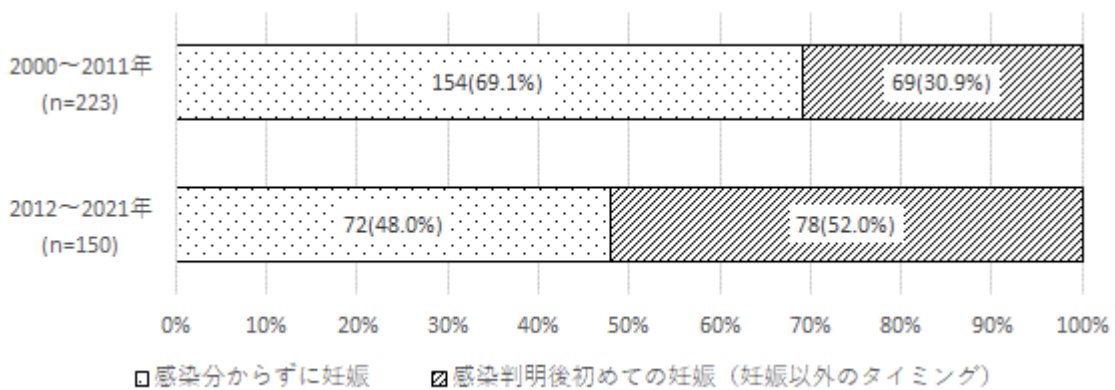


図 12 感染判明時期の推移

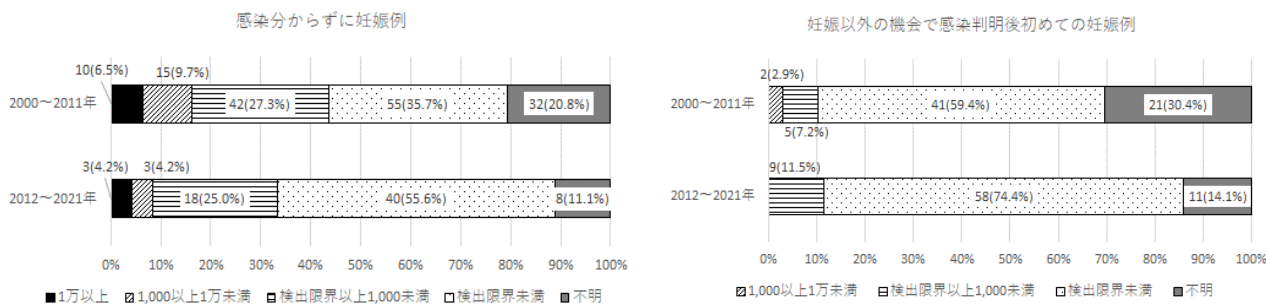


図 13 分娩前ウイルス量の推移

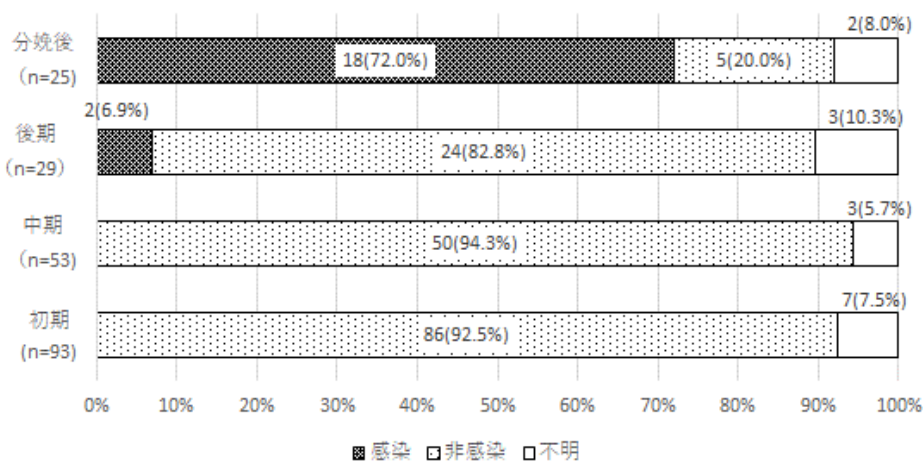


図 14 妊娠中・分娩後に HIV が初めて判明した症例の母子感染例

表 8 HIV 感染判明以降の妊娠回数

妊娠回数	妊婦数
1回	212
2回	82
3回	33
4回	13
5回	1
6回	1
合計	342

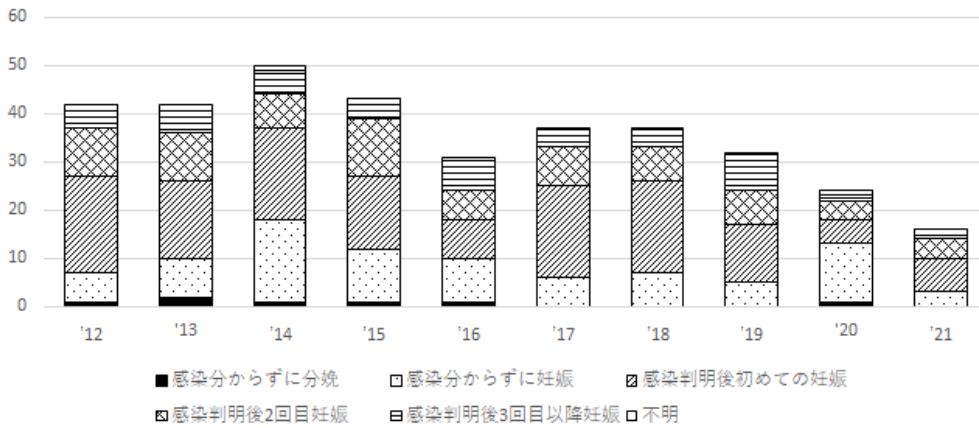


図 15 HIV 感染判明の有無と妊娠時期の年次別推移 (2012～2021 年)

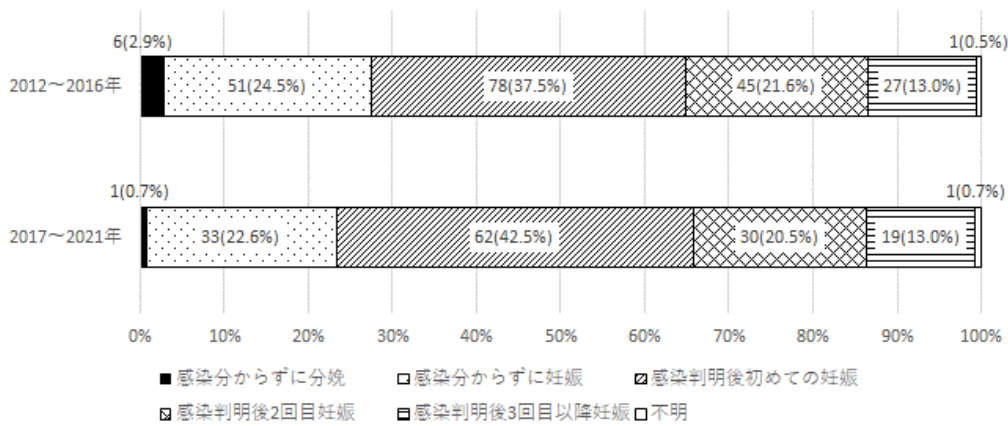


図 16 HIV 感染判明の有無と妊娠時期の変動 (2012～2021 年)

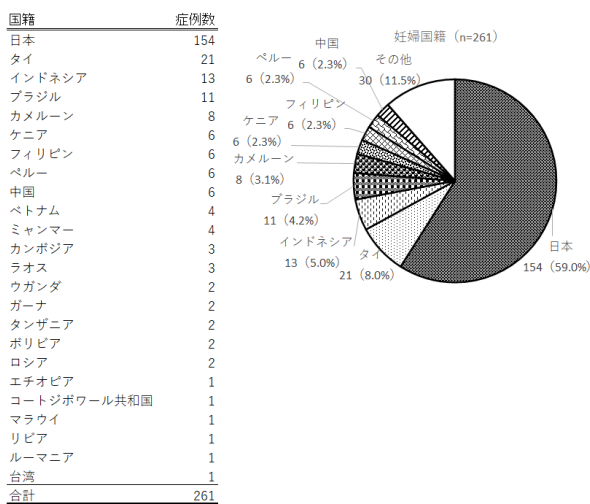


図 17 感染判明後妊娠の妊婦国籍 (2012～2021 年)

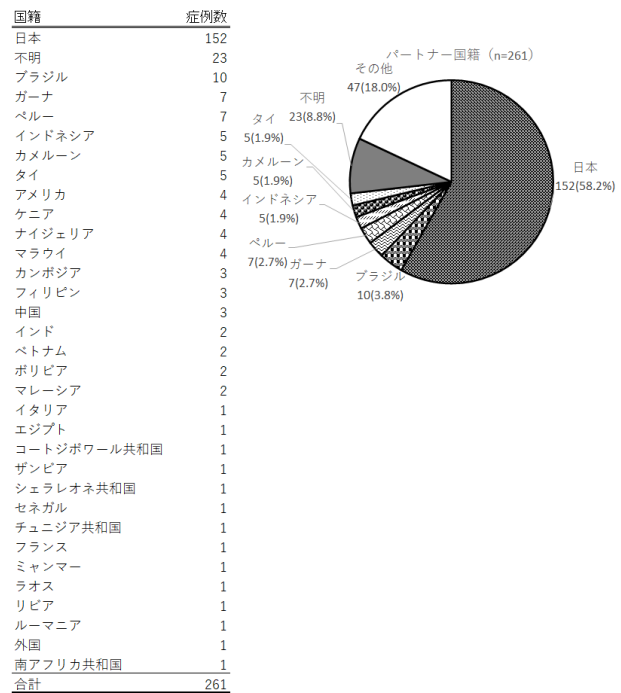


図 18 感染判明後妊娠のパートナー国籍 (2012～2021 年)

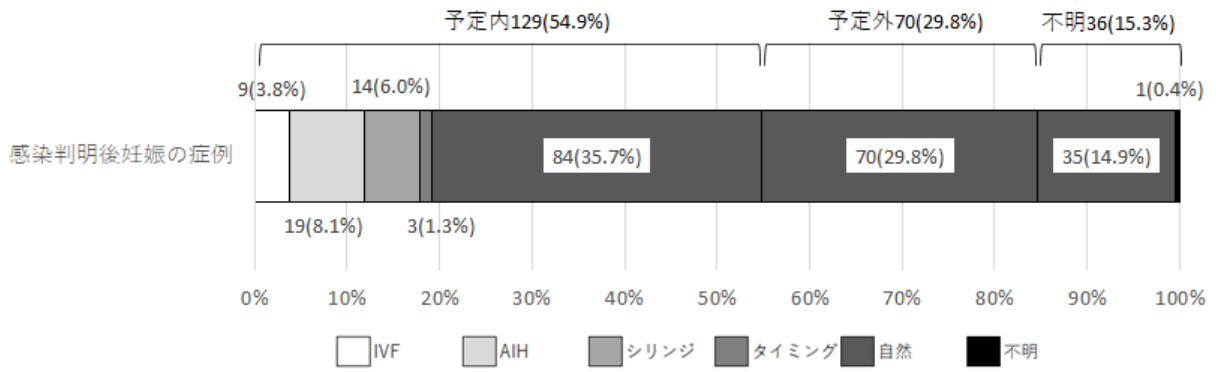


図 19 感染判明後妊娠の予定内・予定外妊娠（2012～2021 年）

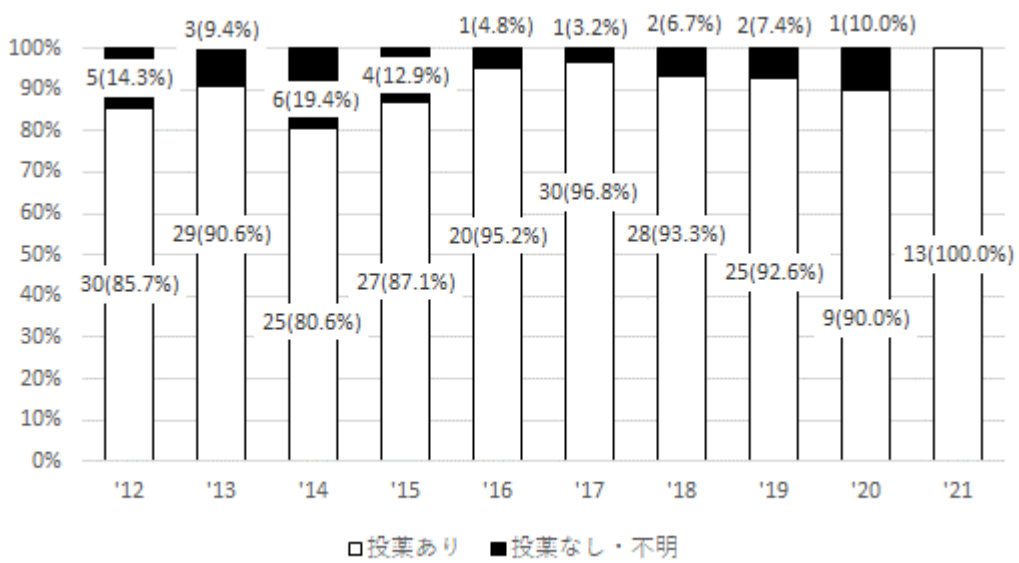


図 20 感染判明後妊娠の妊娠中投薬の有無（2012～2021 年）

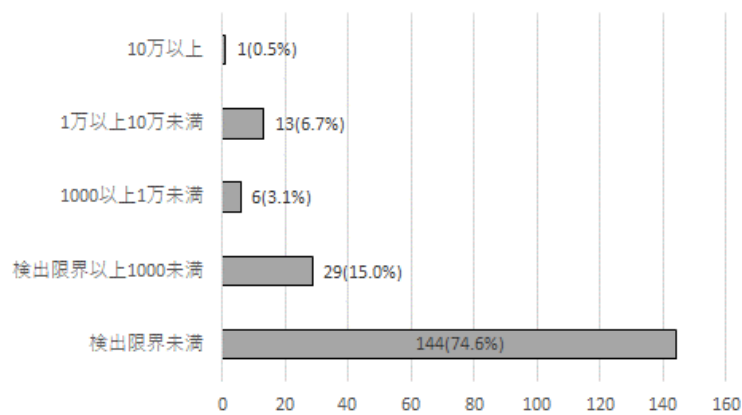


図 21 感染判明後妊娠の血中ウイルス量最高値（2012～2021 年）

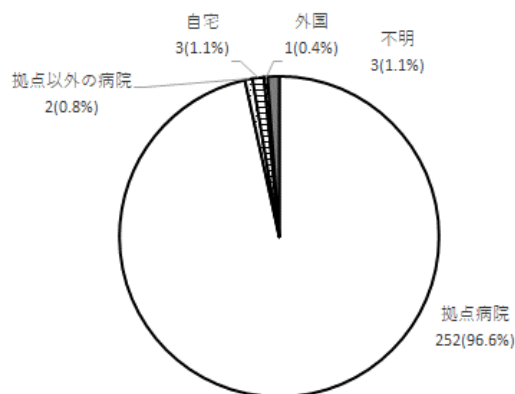


図 22 感染判明後妊娠の転帰場所（2012～2021 年）

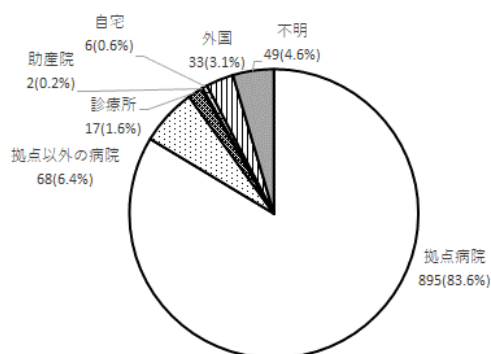


図 23 HIV 感染妊娠の転帰場所
(妊娠転帰不明例、妊娠中例を除く)

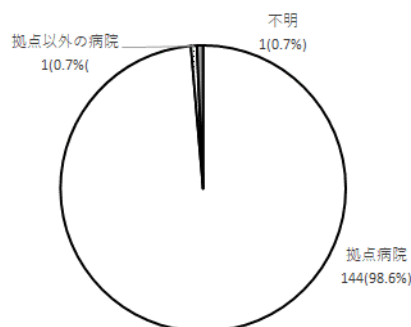


図 24 HIV 感染妊娠転帰場所（2017～2021 年）

表 9 転帰場所別分娩様式

分娩様式	拠点病院		拠点以外の病院		診療所・助産院	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
選択的帝王切	552	61.7%	28	41.2%	0	0.0%
緊急帝王切	97	10.8%	4	5.9%	3	15.8%
経膣	27	3.0%	15	22.1%	14	73.7%
分娩様式不明		0.0%		0.0%	0	0.0%
自然流産	43	4.8%		0.0%	0	0.0%
異所性妊娠	5	0.6%	1	1.5%	0	0.0%
人工妊娠中絶	171	19.1%	20	29.4%	2	10.5%
総計	895	100.0%	68	100.0%	19	100.0%

表 10 転帰場所別抗ウイルス薬投与状況

抗ウイルス薬	拠点病院		拠点以外の病院		診療所・助産院	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
cART	581	64.9%	11	16.2%	1	5.3%
2剤	7	0.8%		0.0%	0	0.0%
単剤	70	7.8%	13	19.1%	0	0.0%
投与なし・不明	237	26.5%	44	64.7%	18	94.7%
総計	895	100.0%	68	100.0%	19	100.0%

表 11 日本で経膈分娩した 73 例

No	分娩年	母子感染	妊婦国籍	在胎週数	妊娠中のウイルス量	妊娠中の抗ウイルス薬	児への抗ウイルス薬	母乳投与	感染判明時期	分娩場所	備考
1	1987	不明	日本	36W	不明	無	不明	無	今回妊娠時	病院	
2	1989	非感染	外国	36W	不明	不明	無	無	分娩直後	病院	
3	1989	非感染	日本	38W	不明	不明	不明	無	不明	不明	
4	1989	非感染	外国	不明	不明	不明	無	有	不明	不明	
5	1991	感染	外国	41W	不明	不明	無	有	児から判明	病院	
6	1991	不明	外国	35W	不明	不明	無	無	不明	診療所	
7	1992	感染	日本	40W	不明	不明	無	無	児から判明	不明	
8	1992	非感染	外国	40W	不明	不明	無	有	不明	病院	
9	1992	感染	日本	40W	不明	不明	無	有	児から判明	病院	
10	1993	感染	外国	36W	不明	不明	不明	不明	児から判明	自宅	
11	1993	非感染	日本	43W	不明	不明	無	無	分娩直後	病院	
12	1993	感染	外国	36W	不明	無	無	無	分娩直後	病院	飛び込み分娩
13	1993	感染	外国	36W	不明	不明	無	有	児から判明	診療所	
14	1993	不明	外国	不明	不明	不明	不明	不明	今回妊娠時	病院	
15	1994	非感染	外国	39W	不明	無	不明	無	分娩直後	病院	飛び込み分娩
16	1994	感染	日本	29W	不明	不明	無	有	児から判明	不明	
17	1994	感染	日本	41W	不明	不明	不明	無	児から判明	診療所	
18	1994	非感染	外国	37W	不明	不明	無	不明	不明	病院	
19	1994	感染	外国	39W	不明	無	不明	不明	分娩後その他機会	病院	
20	1995	非感染	外国	39W	不明	無	不明	無	前回妊娠時	病院	飛び込み分娩
21	1995	感染	外国	39W	不明	不明	無	有(1W)	分娩直後	診療所	
22	1995	感染	外国	37W	不明	無	無	無	分娩直後	病院	飛び込み分娩
23	1995	非感染	外国	40W	不明	無	無	無	分娩直前	病院	飛び込み分娩
24	1995	感染	日本	34W	不明	無	無	無	分娩直後	病院	飛び込み分娩
25	1995	感染	外国	38W	不明	無	不明	不明	分娩直前	病院	飛び込み分娩
26	1995	感染	外国	39W	不明	無	有(6M)	無	分娩後その他機会	不明	
27	1996	非感染	日本	38W	不明	無	不明	無	分娩直前	病院	飛び込み分娩
28	1996	不明	日本	不明	不明	不明	無	無	分娩直後	病院	墮落分娩
29	1996	感染	日本	38W	不明	不明	無	有(3W)	前回妊娠時	不明	
30	1996	非感染	外国	39W	不明	無	不明	不明	今回妊娠時	病院	
31	1996	非感染	外国	39W	不明	不明	不明	不明	今回妊娠時	病院	
32	1996	非感染	外国	41W	不明	無	不明	無	分娩直前	病院	飛び込み分娩
33	1996	感染	日本	39W	不明	不明	無	有	児から判明	不明	
34	1996	非感染	外国	不明	不明	不明	不明	不明	妊娠前	病院	
35	1997	感染	外国	不明	不明	不明	不明	有	児から判明	診療所	
36	1997	感染	外国	39W	不明	不明	有	無	前回妊娠時	不明	
37	1998	非感染	外国	37W	不明	35W~37W AZT	有	無	前回妊娠時	病院	
38	1998	非感染	外国	39W	不明	不明	不明	不明	分娩直前	病院	
39	1998	感染	日本	40W	不明	不明	無	有	分娩後その他機会	不明	次子妊娠時に判明
40	1998	不明	外国	39W	不明	無	不明	不明	前回妊娠時	病院	飛び込み分娩
41	1998	非感染	外国	40W	不明	無	無	不明	分娩後その他機会	診療所	
42	1999	感染	外国	40W	不明	無	無	有	分娩後その他機会	病院	次子妊娠時に判明
43	1999	不明	外国	38W	不明	無	不明	不明	前回妊娠時	病院	飛び込み分娩
44	1999	不明	日本	36W	19W:14,000 35W:800	AZT	不明	不明	今回妊娠時	病院	
45	1999	感染	外国	39W	不明	不明	不明	無	児から判明	病院	飛び込み分娩
46	2000	感染	日本	38W	不明	無	無	有	児から判明	病院	
47	2001	非感染	日本	33W	18W:84,000 22W:50未満 32W:100	20W~ AZT+3TC+NVP	AZT	無	今回妊娠時	病院	自然陣痛、前期破水
48	2002	非感染	外国	35W	不明	不明	AZT	無	分娩直前	病院	飛び込み分娩
49	2002	非感染	外国	38W	31W:1,200 35W:50以下	31W~35W AZT+3TC+NFV	AZT	無	今回妊娠時	病院	陣痛誘発、人工破膜
50	2002	感染	不明	不明	不明	不明	AZT	不明	分娩後その他機会	不明	
51	2003	非感染	不明	40W	不明	不明	不明	有(6M)	分娩直前	病院	飛び込み分娩
52	2003	非感染	外国	39W	38W6D:40,000	分娩時 AZT点滴 NVP内服	AZT+NVP(1回の み)	無	今回妊娠時	病院	飛び込み分娩
53	2003	非感染	日本	不明	不明	不明	無	不明	分娩後その他機会	助産院	
54	2003	不明	外国	不明	不明	不明	不明	不明	分娩直後	診療所	
55	2004	非感染	日本	33W	不明	分娩時 AZT点滴	AZT+NVP+NFV+3TC	無	分娩直前	病院	飛び込み分娩
56	2004	非感染	外国	40W	不明	無	無	無	分娩後その他機会	診療所	
57	2006	感染	外国	39W	不明	無	AZT	無 (守られたかは 不明)	分娩直後	病院	
58	2006	非感染	日本	39W	不明	20W~39W AZT+3TC+NFV	不明	不明	前回妊娠後	助産院	
59	2008	不明	外国	36W	不明	無	AZT	無	分娩直後	自宅	
60	2008	感染	外国	不明	不明	不明	不明	不明	分娩後その他機会	診療所	次子妊娠時に判明
61	2010	感染	日本	39W	不明	無	無	無	児から判明	病院	飛び込み分娩
62	2011	非感染	日本	40W	不明	不明	不明	不明	妊娠前	自宅	
63	2012	感染	外国	38W	不明	無	不明	有(3Y2M)	分娩後その他機会	病院	次子妊娠時に判明
64	2013	感染	日本	37W	不明	無	不明	不明	分娩後その他機会	診療所	次子妊娠時に判明
65	2013	非感染	日本	40W	不明	無	無	有(3M)	分娩後その他機会	診療所	
66	2014	非感染	日本	41W	不明	無	AZT+NVP+3TC→ AZT+NFV+3TC	無	分娩直前	病院	未妊健 飛び込み分娩
67	2014	非感染	日本	40W	不明	不明	不明	不明	妊娠前	自宅	
68	2014	不明	外国	35W	不明	不明	不明	不明	妊娠前	自宅	墮落分娩
69	2016	不明	日本	不明	不明	妊娠前から TVD+RAL	AZT	無	妊娠前	自宅	
70	2016	感染	日本	35W	不明	無	無	有(10M)	児から判明	診療所	
71	2019	非感染	外国	39W	39w4d:56,000	不明	AZT+NVP+3TC	無	分娩直前	拠点	飛び込み分娩
72	2020	感染	日本	38W	不明	無	無	有	分娩後その他機会	不明	次子妊娠時に判明
73	2021	非感染	日本	38W	7W:354 20W:未検出 33W:未検出 36W:未検出	TDF+FTC+DRV+ TRV	AZT	無	妊娠前	拠点	妊婦の希望

表 12 母子感染の 62 例

No	分娩年	国籍	感染判明時期	分娩場所	陣痛	破水後時間	在胎週数	分娩様式	母乳栄養	妊娠中CD4	妊娠中ウイルス量	妊娠中の抗ウイルス薬	備考
1	1991	日本	分娩後その他機会	不明(日本)	不明	不明	40W	選択的帝王切	あり	不明	不明	不明	
2	1991	外国	児から判明	病院	不明	不明	41W	経産	あり	不明	不明	不明	
3	1992	日本	児から判明	不明(日本)	不明	不明	40W	経産	なし	不明	不明	不明	
4	1992	日本	児から判明	病院	不明	27分	40W	経産	あり	41	不明	不明	
5	1993	外国	児から判明	自宅	不明	不明	36W	経産	不明	不明	不明	不明	
6	1993	外国	分娩直後	病院	自然陣痛	人工破水 23分	36W	経産	なし	不明	不明	投与なし	飛び込み分娩
7	1993	外国	児から判明	診療所	不明	不明	36W	経産	あり	不明	不明	不明	
8	1993	外国	不明	病院	不明	不明	36W	選択的帝王切	不明	不明	不明	不明	
9	1994	外国	分娩直後	病院	不明	不明	40W	緊急帝王切	なし	不明	不明	不明	
10	1994	日本	児から判明	不明(日本)	不明	不明	29W	経産	あり	不明	不明	不明	飛び込み分娩
11	1994	日本	児から判明	診療所	不明	不明	41W	経産	なし	不明	不明	不明	
12	1994	外国	分娩後その他機会	病院	不明	不明	39W	経産	不明	不明	不明	投与なし	
13	1995	外国	分娩直後	診療所	不明	16分	39W	経産	あり	不明	不明	不明	初診時にWArを施行。陽性であったため、HIV抗体検査施行。分娩後に陽性判明。
14	1995	外国	今回妊娠時	病院	不明	破水無し	36W	選択的帝王切	なし	不明	不明	不明	
15	1995	外国	分娩直後	病院	自然陣痛	人工破水 39分	37W	経産	なし	不明	不明	投与なし	飛び込み分娩
16	1995	日本	分娩直後	病院	有り	有り 24時間	34W	経産	なし	不明	不明	投与なし	飛び込み分娩
17	1995	外国	今回妊娠時	病院	不明	不明	35W	緊急帝王切	あり	26W:116 30W:64	不明	30W~ AZT	
18	1995	外国	分娩直前	病院	不明	不明	38W	経産	不明	不明	不明	投与なし	飛び込み分娩
19	1996	外国	今回妊娠時	病院	不明	不明	36W	緊急帝王切	なし	不明	不明	不明	
20	1996	日本	前回妊娠時	不明(日本)	不明	不明	38W	経産	あり	不明	不明	不明	
21	1996	日本	児から判明	不明(日本)	不明	不明	39W	経産	あり	不明	不明	不明	
22	1997	外国	児から判明	診療所	不明	不明	不明	経産	あり	不明	不明	不明	
23	1997	外国	今回妊娠時	病院	不明	不明	不明	選択的帝王切	なし	不明	不明	AZT+3TC+NFV	言葉の問題により投薬指示が守られなかった可能性あり
24	1997	日本	児から判明	診療所	不明	不明	39W	緊急帝王切	あり	不明	不明	不明	
25	1998	外国	児から判明	診療所	不明	不明	37W	緊急帝王切	あり	不明	不明	不明	
26	1998	日本	分娩後その他機会	不明(日本)	不明	不明	40W	経産	あり	不明	不明	不明	
27	1999	外国	分娩後その他機会	病院	あり	不明	40W	経産	あり	不明	不明	投与なし	
28	1999	外国	児から判明	病院	自然陣痛	自然破水 (陣痛後)11 時間10分	39W	経産	なし	不明	不明	不明	母帰国後に児HIV感染判明
29	2000	日本	児から判明	病院	自然陣痛	26時間42分	38W	経産	あり	不明	不明	不明	
30	2000	外国	児から判明	診療所	不明	不明	41W	緊急帝王切	あり	不明	不明	不明	
31	2006	外国	分娩直後	病院	自然あり	32分	39W	経産	不明 指示守られ たか不明	不明	不明	不明	
32	2008	外国	分娩後その他機会	診療所	不明	不明	不明	経産	不明	不明	不明	不明	第1子分娩時、妊婦陰性。第2子妊娠時に感染判明。第1子感染。
33	2009	日本	分娩後その他機会	病院	不明	不明	不明	緊急帝王切	不明	不明	不明	投与なし	妊娠初期のスクリーニング陰性。
34	2010	日本	児から判明	病院	自然陣痛	人工破膜	39W	経産	なし	不明	不明	不明	陰性の検査報告を持参して受診。HIV陰性の妊婦として対応。
35	2010	外国	今回妊娠時	病院	陣痛なし	人工破膜	37W	選択的帝王切	なし	34w6d: 471	34w6d: 14,000 36w6d:95	34W~37W AZT+3TC+RAL	
36	2012	外国	分娩後その他機会	病院	有	不明	38W	経産	あり	不明	不明	不明	出産後(次子妊娠中)にHIV感染判明。児の妊娠中19週のHIV抗体陰性。感染経路不明。妊娠18週のHIVスクリーニング陰性。その後異常なく正常経産分娩。第2子妊娠時母親のHIV感染判明。第1子感染。
37	2013	日本	分娩後その他機会	診療所	不明	不明	37W	経産	不明	不明	不明	投与なし	
38	2016	日本	児から判明	診療所	有	不明	35W	経産	あり	不明	不明	投与なし	
39	2017	外国	分娩直前	病院	陣痛なし	人工破膜	31W	緊急帝王切	なし	31w3d:18	31w3d: 120,000	帝王切開直前のみAZT	27週前医来院。31週採血でHIV陽性。意識障害あり搬送。同日緊急帝王切開。
40	1984	外国	不明	外国	不明	不明	不明	分娩様式不明	不明	不明	不明	不明	
41	1987	日本	不明	外国	不明	不明	38W	経産	あり	不明	不明	不明	
42	1991	外国	不明	外国	不明	不明	不明	経産	なし	不明	不明	不明	
43	1991	外国	今回妊娠時	外国	不明	不明	不明	経産	不明	不明	不明	不明	
44	1992	外国	分娩後その他機会	外国	不明	不明	不明	分娩様式不明	不明	不明	不明	不明	
45	1993	外国	不明	外国	不明	不明	不明	分娩様式不明	不明	不明	不明	不明	
46	1993	外国	分娩後その他機会	外国	不明	不明	40W	経産	なし	不明	不明	不明	
47	1995	外国	今回妊娠時	外国	不明	不明	不明	分娩様式不明	不明	不明	不明	不明	
48	1995	外国	児から判明	外国	不明	不明	40W	経産	あり	不明	不明	不明	
49	1997	外国	児から判明	外国	不明	不明	40W	選択的帝王切	なし	不明	不明	不明	
50	1998	外国	児から判明	外国	不明	不明	不明	経産	不明	不明	不明	不明	
51	2000	外国	児から判明	外国	不明	不明	不明	経産	不明	不明	不明	不明	
52	2000	外国	分娩後その他機会	外国	不明	不明	不明	分娩様式不明	あり	不明	不明	不明	
53	2005	外国	前回妊娠時	外国	不明	不明	37W	選択的帝王切	なし	557	不明	不明	
54	2009	外国	児から判明	外国	有り	不明	不明	緊急帝王切	不明	不明	不明	不明	
55	2010	日本	分娩後その他機会	外国	不明	不明	40W	経産	不明	不明	不明	不明	第2子妊娠時母親のHIVが判明し、児検査の結果HIV感染が判明。
56	2010	外国	分娩後その他機会	外国	不明	不明	不明	分娩様式不明	不明	不明	不明	投与なし	
57	2010	外国	分娩後その他機会	外国	不明	不明	不明	経産	あり	不明	不明	投与なし	
58	2015	外国	分娩後その他機会	外国	不明	不明	29W	経産	あり	不明	不明	投与なし	
59	1995	外国	分娩後その他機会	不明	不明	不明	39W	経産	あり	不明	不明	投与なし	
60	1997	外国	前回妊娠時	不明	不明	不明	39W	経産	あり	不明	不明	不明	
61	2002	不明	分娩後その他機会	不明	不明	不明	不明	経産	不明	不明	不明	不明	
62	2020	日本	分娩後その他機会	不明	不明	不明	38W	経産	あり	不明	不明	投与なし	次子妊娠時に感染判明

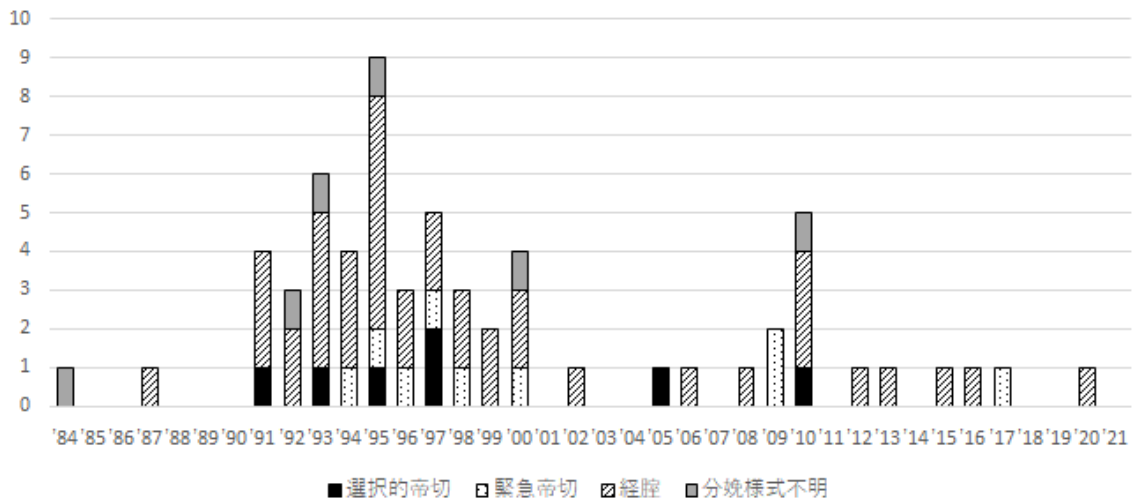


図 25 母子感染 62 例の転帰年と分娩様式

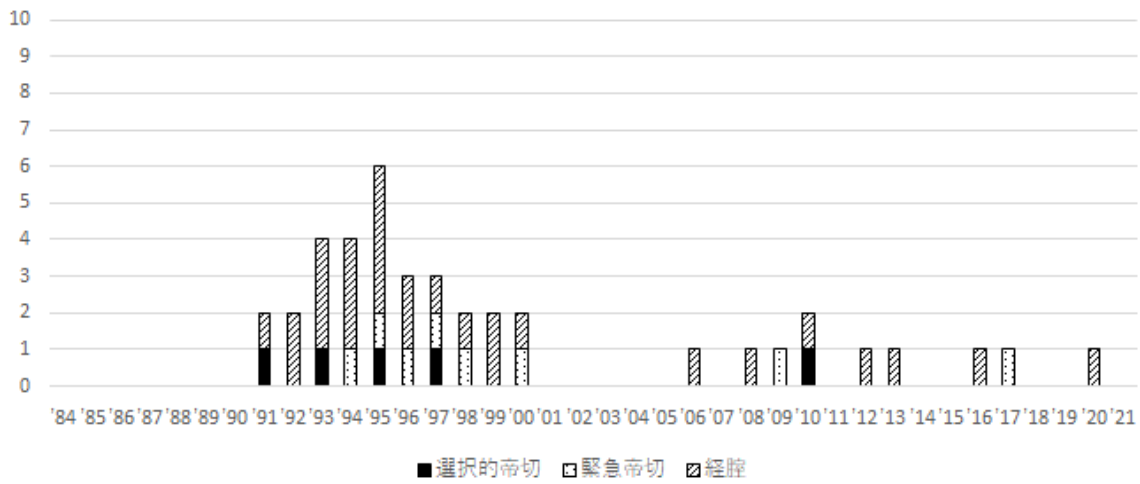


図 26 母子感染、日本転帰 40 例の転帰年と分娩様式

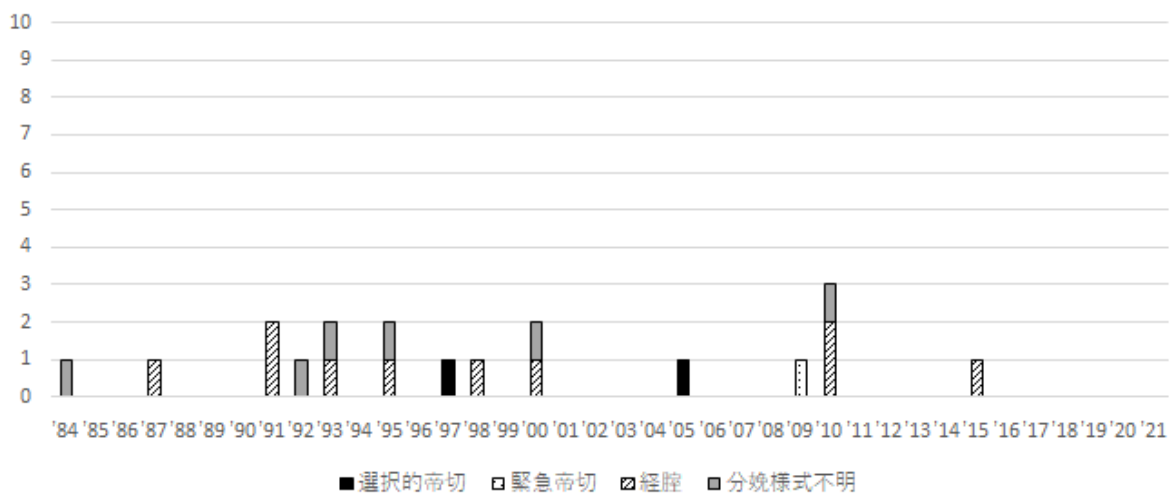


図 27 母子感染、外国転帰 19 例の転帰年と分娩様式

表 13 母子感染 62 例の妊婦国籍

地域	国籍	症例数	%
日本		18	29.0%
アジア	タイ	17	27.4%
	インドネシア	3	4.8%
	ミャンマー	3	4.8%
	中国	3	4.8%
	ベトナム	1	1.6%
アフリカ	ケニア	1	1.6%
	タンザニア	8	12.9%
中南米	ブラジル	3	4.8%
不明		4	6.5%
総計		62	100.0%

表 14 母子感染、日本転帰 40 例の妊婦国籍

地域	国籍	症例数	%
日本		16	40.0%
アジア	タイ	15	37.5%
	ミャンマー	3	7.5%
	インドネシア	1	2.5%
	中国	1	2.5%
	ベトナム	1	2.5%
アフリカ	ケニア	1	2.5%
	タンザニア	1	2.5%
中南米	ブラジル	1	2.5%
総計		40	100.0%

表 15 母子感染、外国転帰 19 例の妊婦国籍

地域	国籍	症例数	%
日本		2	10.5%
アジア	インドネシア	2	10.5%
	中国	2	10.5%
	タイ	1	5.3%
	ネパール	1	5.3%
アフリカ	ケニア	6	31.6%
	タンザニア	2	10.5%
中南米	ブラジル	3	15.8%
総計		19	100.0%

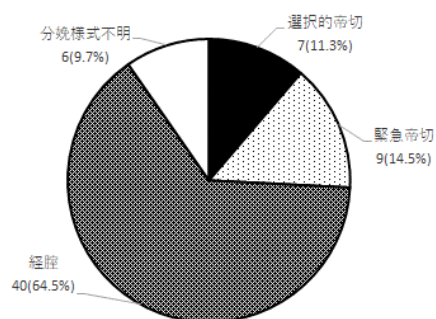


図 28 母子感染 62 例の分娩様式

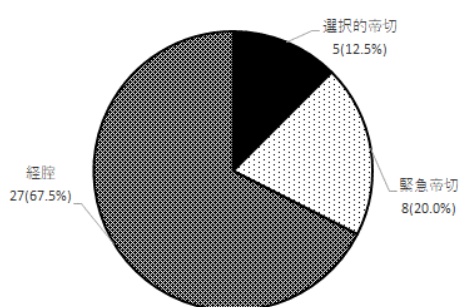


図 29 母子感染、日本転帰 40 例の分娩様式

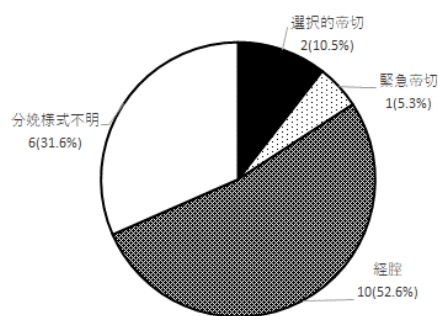


図 30 母子感染、外国転帰 19 例の分娩様式

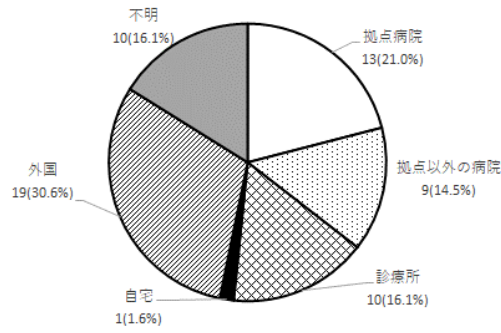


図 31 母子感染 62 例の転帰場所

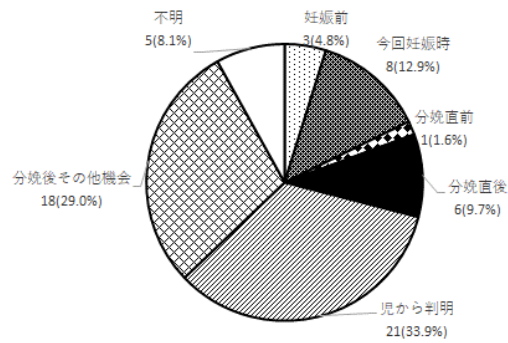


図 32 母子感染 62 例の HIV 感染診断時期

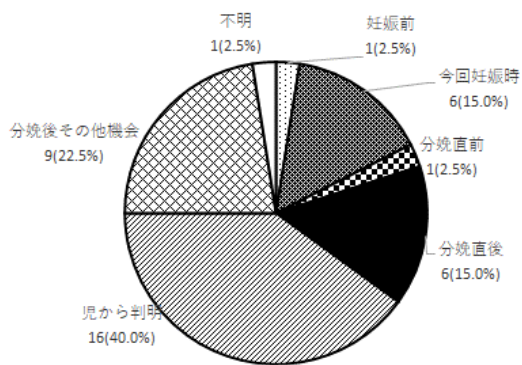


図 33 母子感染、日本転帰 40 例の感染診断時期

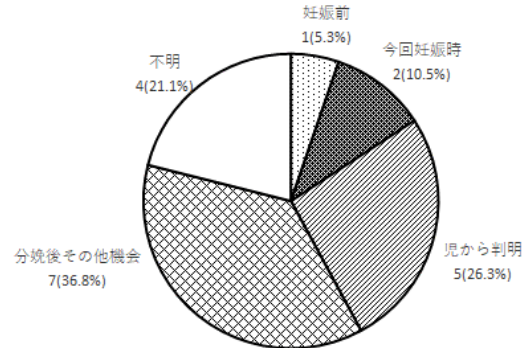


図 34 母子感染、外国転帰 19 例の感染診断時期

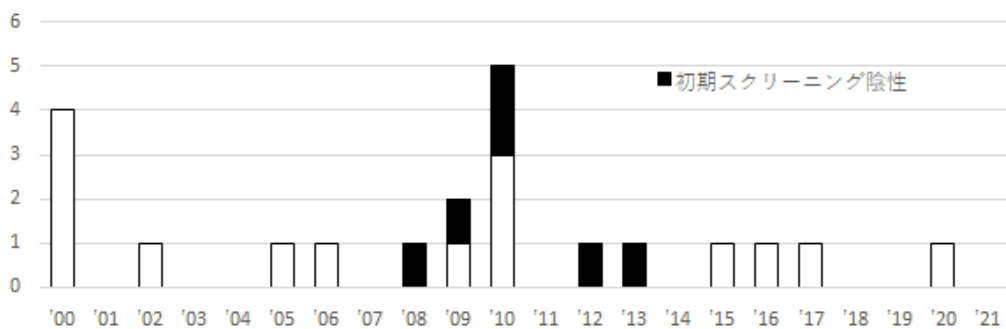


図 35 母子感染例における妊娠初期スクリーニング検査陰性例

表 16 2022 年全国二次調査報告症例数（重複回答を除く）

報告症例数	43 例
内訳	
・2021/3/31以前の妊娠転帰(未報告症例)	5 例
・2021/3/31以前の妊娠転帰(既報告症例)	10 例
・2021/4/1以降の妊娠転帰症例	27 例
・転帰不明症例	1 例

表 17 新規・未報告症例の報告都道府県

ブロック	都道府県	症例数	(%)	ブロック別	(%)
北海道・東北 関東・甲信越	北海道	3	9.1%	3	9.1%
	茨城県	2	6.1%	14	42.4%
	群馬県	1	3.0%		
	千葉県	1	3.0%		
	東京都	8	24.2%		
神奈川県	2	6.1%			
北陸・東海	岐阜県	1	3.0%	8	24.2%
	愛知県	7	21.2%		
近畿	滋賀県	1	3.0%	4	12.1%
	大阪府	3	9.1%		
四国・中国	広島県	1	3.0%	3	9.1%
	香川県	2	6.1%		
九州・沖縄	沖縄県	1	3.0%	1	3.0%
合計		33	100.0%	33	100.0%

表 18 新規・未報告症例の妊婦国籍

地域	国籍	症例数	(%)	地域別	(%)
アジア	日本	18	54.5%	18	54.5%
	フィリピン	4	12.1%	9	27.3%
	タイ	2	6.1%		
	ミャンマー	1	3.0%		
	インドネシア	1	3.0%		
	ラオス	1	3.0%		
アフリカ	リベリア共和国	2	6.1%	5	15.2%
	コートジボワール共和国	1	3.0%		
	カメルーン	1	3.0%		
	ガーナ	1	3.0%		
中南米	ブラジル	1	3.0%	1	3.0%
合計		33	100.0%	33	100.0%

表 19 新規・未報告症例のパートナー国籍

地域	国籍	症例数	(%)	地域別	(%)
アジア	日本	19	57.6%	19	57.6%
	フィリピン	1	3.0%	3	9.1%
	ミャンマー	1	3.0%		
	インドネシア	1	3.0%		
アフリカ	リベリア共和国	2	6.1%	7	21.2%
	エジプト	1	3.0%		
	カメルーン	1	3.0%		
	コートジボワール共和国	1	3.0%		
	ナイジェリア	1	3.0%		
	ガーナ	1	3.0%		
中南米	ブラジル	1	3.0%	1	3.0%
北米	アメリカ	2	6.1%	2	6.1%
不明		1	3.0%	1	3.0%
合計		33	100.0%	33	100.0%

表 20 新規・未報告症例の妊婦とパートナーの国籍組み合わせ

国籍組み合わせ	症例数	(%)
♀日本-♂日本	15	45.5%
♀日本-♂外国	2	6.1%
♀外国-♂日本	4	12.1%
♀外国-♂外国	11	33.3%
不明	1	3.0%
合計	33	100.0%

表 21 新規・未報告症例の HIV 感染妊娠の分娩様式と母子感染

分娩様式	母子感染			総計	
	感染	非感染	不明		
選択的帝王切	1	14	7	22	68.8%
緊急帝王切		1	2	3	9.4%
経膣	1		1	2	6.3%
自然流産				4	12.5%
人工妊娠中絶				1	3.1%
合計	2	15	10	32	100.0%

転帰不明1例除く

表 22 新規・未報告症例の在胎週数と出生児体重の平均

	症例数	在胎週数		出生児体重	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差
選択的帝王切	22	37w2d	0.6w	2,893	390
緊急帝王切	3	36w6d	1.8w	2,547	133
経膣	2	31w6d	6.3w	1,764	794
自然流産	4				
人工妊娠中絶	1				
合計	32	36w6d	2.4w	2,772	525

転帰不明1例除く

表 23 新規・未報告症例の妊娠転帰場所

転帰場所	症例数	(%)
拠点病院	31	96.9%
拠点以外の病院	1	3.1%

転帰不明1例除く

表 24 新規・未報告症例の抗ウイルス薬レジメン

レジメン	症例数	(%)	開始時期
TVD+RAL(TDF+FTC+RAL)	8	24.2%	妊娠前から:2、妊娠中:5(15w、20w、20w、21w、週数不明)、投与期間不明:1
DVY+DTG	2	6.1%	妊娠前から:1、妊娠中:1(34w)
DVY+RAL	2	6.1%	妊娠前から:1、妊娠中:1(週数不明)
COM+LPV/RTV	1	3.0%	妊娠前から
TRI	1	3.0%	妊娠中(13w)
DRV+COBI+TAF+FTC	1	3.0%	妊娠前から
DRV+3TC	1	3.0%	妊娠前から
EPZ+RAL	1	3.0%	妊娠前から
BVY	1	3.0%	妊娠前から
ABC+3TC+RAL→EPZ+RAL	1	3.0%	妊娠前から、11wレジメン変更
DVY+DTG→TVD+RAL	1	3.0%	妊娠前から、8wレジメン変更
TRI→TVD+RAL	1	3.0%	妊娠前から、9wレジメン変更
TVD+RTV+DRV→TVD+RAL	1	3.0%	妊娠前から、32wレジメン変更
BIC+TAF+FTC→TDF+FTC+RAL	1	3.0%	妊娠前から、6wレジメン変更
TDF+FTC+RAL→TVD+RAL	1	3.0%	妊娠中(15w)、19wレジメン変更
DTG+DVY→DTG+DVY+AZT	1	3.0%	妊娠中(38w)、39wレジメン変更
投与なし	2	6.1%	
不明	6	18.2%	妊娠前から:1
合計	33	100.0%	

表 25 新規・未報告症例のパートナーとの婚姻関係

婚姻関係	症例数	(%)
あり	26	78.8%
なし・不明	7	21.2%
合計	33	100.0%

表 26 新規・未報告症例の HIV 感染判明時期

	症例数	(%)
感染分からずに分娩	1	3.0%
感染分からずに妊娠	12	36.4%
感染判明後初めての妊娠(前回妊娠時に感染判明)	6	18.2%
感染判明後初めての妊娠(妊娠前に感染判明)	7	21.2%
感染判明後2回目妊娠	6	18.2%
感染判明後3回目以降妊娠	1	3.0%
合計	33	100.0%

表 27 新規・未報告症例の HIV 感染判明後の妊娠回数

妊娠回数	妊娠数	(%)
1回	13	65.0%
2回	6	30.0%
3回	1	5.0%
合計	20	100.0%

表 28 新規・未報告症例の HIV 感染判明時期と妊娠転帰

	感染分からずに分娩		感染分からずに妊娠		感染判明後初めての妊娠 (前回妊娠時に判明)		感染判明後初めての妊娠 (妊娠前に感染判明)		感染判明後 2回目妊娠		感染判明後 3回目以降妊娠		不明		計	
選択的帝切			9	28.1%	3	9.4%	6	18.8%	4	12.5%				22	68.8%	
緊急帝切					1	3.1%	1	3.1%			1	3.1%		3	9.4%	
経産	1	3.1%							1	3.1%				2	6.3%	
自然流産			2	6.3%	1	3.1%			1	3.1%				4	12.5%	
人工妊娠中絶			1	3.1%										1	3.1%	
計	1	3.1%	12	37.5%	5	15.6%	7	21.9%	6	18.8%	1	3.1%	0	0.0%	32	100.0%

転帰不明1例除く

表 29 新規・未報告症例の妊娠方法

	不妊治療あり				不妊治療なし (自然妊娠)		不明		計			
	人工授精		体外受精	タイミング	注射器抽入							
予定内妊娠	2		1	100.0%	0	0	18	75.0%	0	21	65.6%	
選択的帝切	1	50.0%	1	100.0%			14	58.3%		15	46.9%	
緊急帝切							3	12.5%		3	9.4%	
経産							1	4.2%		1	3.1%	
自然流産	1	50.0%								1	3.1%	
人工妊娠中絶										0	0.0%	
予定外妊娠	0		0		0	0	6	25.0%	0	6	18.8%	
選択的帝切							5	20.8%		5	15.6%	
緊急帝切										0	0.0%	
経産										0	0.0%	
自然流産										0	0.0%	
人工妊娠中絶							1	4.2%		1	3.1%	
不明	0		0		0	0	0	0.0%	5	5	15.6%	
選択的帝切									1	20.0%	1	3.1%
緊急帝切											0	0.0%
経産									1	20.0%	1	3.1%
自然流産									3	60.0%	3	9.4%
人工妊娠中絶											0	0.0%
計	2	100.0%	1	100.0%	0	0	24	100.0%	5	100.0%	32	100.0%

転帰不明1例除く

表 30 新規・未報告症例の分娩までの受診歴

	症例数	(%)
全く受診していない	1	3.7%
3回以下	0	0.0%
最終受診から分娩まで3カ月以上受診なし	0	0.0%
定期受診	24	88.9%
不明	2	7.4%
合計	27	100.0%